



文部科学省科学技術人材育成費補助事業
女性研究者研究活動支援事業（一般型）

平成 26 年度

男女共同参画推進室 事業報告書

平成 27 年 3 月



京都府公立大学法人 京都府立大学

目次

I はじめに

ごあいさつ	3
-------------	---

II 事業概要

1. 京都府立大学男女共同参画推進基本理念および基本方針	7
2. 事業概要（平成 25 年度～平成 27 年度）	8
3. 事業の枠組	11

III 事業報告

男女共同参画推進委員会 開催記録	15
1. ライフイベント中の研究者を対象とした両立支援（かつらプロジェクト）	17
総 括	17
1-1 研究支援員制度	18
1-2 卒業生就業状況調査	25
1-3 保育支援プログラム	26
1-4 学童保育「夏休み府大キッズ Labo」（補助事業対象外）	27
2. 若手研究者育成（あおいプロジェクト）	29
総 括	29
2-1 キャリアアップ支援	30
2-2 女性メンター制度	40
2-3 キャリアパスアドバイス、カウンセリング	40
2-4 女性研究者ネットワークの形成	40
2-5 裾野拡大・次世代育成	41
2-6 オープンキャンパストークセッション「女性のキャリアデザイン」（補助対象事業外）	41
3. 意識啓発・女性研究者の採用人数及び上位職女性研究者の増加に向けた取組	44
総 括	44
3-1 ワーク・ライフ・バランスセミナーの開催	45
3-2 流木祭 講演会「私のワクワク仕事術！ ～女性が社会で働くということ～」	49
3-3 ホームページによる情報発信	50
3-4 男女共同参画推進室 リーフレットの改訂	50
3-5 男女共同参画推進室 ニュースレターの発行	50
3-6 情報収集・渉外・広報活動	51
3-7 女性研究者の採用人数及び上位職女性研究者の増加に向けた取組	53

IV 資料

ニュースレター.....	57
「卒業生の就業状況調査」調査報告概要	63
大学院生の現状とニーズ調査 調査票	68
本学における女性研究者・学生に関わる基礎データ	75

V 規程・要項

京都府立大学男女共同参画推進委員会規程	83
京都府立大学女性研究者研究活動支援事業による研究支援員制度 実施要項	85
京都府立大学女性研究者研究活動支援事業による保育支援プログラム 実施要項	88
京都府立大学女性研究者研究活動支援事業による「京都府立大学あおいセミナー」募集要項	90
京都府立大学女性研究者支援メンター制度 実施要項	92

VI 実施体制

平成 26 年度 男女共同参画推進委員会 委員一覧	97
平成 26 年度 男女共同参画推進室 室員一覧	97

I はじめに

ごあいさつ

「エンパワーメント」がキーワードとなった北京女性会議（第4回世界女性会議）から20年、男女雇用機会均等法の制定から30年、そして、1970年の国際婦人年からは、実に45年が経過しています。こうして振り返ると、男女共同参画社会の実現に向けた歩みは、もう少し進んでいるはずではなかったかという思いを強くします。

男女共同参画基本法が1999年に制定され、その前文では、「男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置付け、社会のあらゆる分野において、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の推進を図っていくことが重要である」と謳われています。

そして、第3次男女共同参画基本計画（2010年）では、科学技術・学術分野における男女共同参画が、一つの分野として設けられ、次のように述べられています。「我が国の研究分野への女性の参画状況は、他の先進国と比べて依然として不十分である。女性研究者の登用及び活躍の促進を加速するため、女性研究者の出産・子育て等と研究との両立のための環境づくりや、女子学生・生徒の理工系分野の進路選択の支援を図り、各研究機関における先導的な取組の成果の全国的な普及・定着を進めることによって、研究機関が実態に応じて積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を推進することを支援するなど、科学技術・学術分野における女性の参画拡大を積極的に推進する」

本学における取組もこうした流れの中にあって、2013年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業女性研究者研究活動支援事業の採択を受け、2014年度は2年目となります。ライフイベント中の研究者を対象にした研究支援、若手研究者育成、意識啓発プロジェクトなど多彩な取り組みが実施され、論文執筆・学会発表・外部資金獲得や研究者を目指すモチベーションの向上などに具体的成果が見られ、シンポジウムや講演会等、意識啓発事業にも多数の参加が得られました。

今後は、上記の研究支援、若手育成の分野等での成果の拡大とともに、女性研究者の比率向上における目標達成に向けた意識的取組の継続が求められています。

男女共同参画推進委員会及び男女共同参画推進室の皆様のこれまでのご努力に敬意を表しますとともに、今後の事業の発展をお祈りし、私個人としても、共働きで子育てをしながら研究職に従事してきた一人として、強い思いをもって臨んでいきたいと思ひます。皆様の積極的な参画をお願い申し上げます。

2015年3月
京都府立大学 学長 築山 崇

Ⅱ 事業概要

1. 京都府立大学男女共同参画推進基本理念および基本方針

平成 26 年 7 月

男女共同参画推進委員会

基本理念

1999 年に施行された男女共同参画社会基本法は、男女が互いにその人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現が、21 世紀のわが国の最重要課題と位置づけています。

本学は、「京都府立大学の理念」に明記しているように、京都府における知の拠点として、広く人文・社会・自然の諸分野にわたる真理を探究し、教育することによって、地域社会と国際社会の持続可能な発展に貢献できる人材を育成することを使命とし、京都の地に根ざした魅力的で個性ある大学として発展することをめざしています。また学問の自由な発展をめざすため、構成員ひとりひとりの人権を尊重し、自律的・自発的な探究を保障することを謳っています。

本学は、教育研究の場でさらなる成果をあげ、社会の発展に貢献するために、学生、教職員が、お互いの多様性を認め合い、協働し、学修、教育・研究、就業、家庭生活の場で、権利と利益の機会が均等で調和している環境の実現を推進します。

ここに、男女共同参画社会の実現をめざすことを宣言し、取組みの方向性を示すことを目的として、本学における男女共同参画推進の基本方針を示します。

基本方針

1. 男女共同参画の視点に立った教育・研究環境および就業体制の確立
2. 教育・研究および就業と家庭生活との両立を図るための支援
3. 男女共同参画に関する啓発活動の推進
4. 大学運営における意思決定への女性参画の推進
5. 男女共同参画を推進する地域社会や自治体との協調・連携の推進

2. 事業概要（平成 25 年度～平成 27 年度）

I. 計画の概要

1. 機関概要

本学は 1895（明治 28）年創立の京都府簡易農学校と 1927（昭和 2）年創立の京都府立女子専門学校を母体として発足し、数度の再編を経て、現在は文学部、公共政策学部、生命環境科学研究科からなる京都府内唯一の公立総合大学である。約 2,000 名の学生のうち女子学生比率が約 6 割と高い。

平成 26 年度の学部生、博士前期・後期課程の女性比率は各々 60.5%、50.6%、48.5%と全国平均を上回っている。特にここ数年は博士後期課程学生における女性比率が上昇しており、生命環境科学研究科は 50%前後に達している。これらの学生の就職先は、民間企業、専門職、中学・高等学校、及び大学の教員や公務員、企業研究職であり、本学は高い専門知識を有する女性教育・研究者を継続的に育成してきたといえる。

また、女性常勤教員数は 26 名（17.0%：平成 26 年 11 月 1 日現在）で、全国平均と同程度であるものの、職階別に見ると教授職の女性は 9 名（13.6%：平成 26 年 11 月 1 日現在）で、他の職階と比べて最も低いことから、上位職階における女性教員比率の向上が課題である。

2. 過去の実績状況

平成 24 年度に本学初の女性副学長が就任、病児保育利用ニーズ調査を実施、男女共同参画推進に関する勉強会を 5 回、研修会を 1 回開催した。平成 25 年 2 月には、『男女共同参画推進意識調査』を全学教員対象にアンケート形式で行い、結果を全学教職員に公表した。

その結果、男女共同参画を進めていくうえで必要な事項として「育児・介護支援」や「意識改革」、「ワークライフバランス（WLB）の実現」が上位に挙がり、また、具体的な取り組みとして、「勤務時間の配慮」、「研究・教育の代替要員の配置」や「事務補助員の配置」、「相談窓口の設置」、「育児支援・病児保育」などのニーズが挙がっており、具体的な両立支援策の実現及び意識改革が重要であることが明らかになった。

3. 達成目標

意欲溢れる女性教育研究者が、等しい機会のもとに生き生きと学び働く大学の実現を目標とする。また、地域の「知の拠点」として男女共同参画の理想的なモデルを提示し、多様で優秀な女性研究者を育成し、高等教育研究機関としての社会的役割を果たすことを目標とする。

女性教員在職比率が 3 年後に 3 ポイント増、すなわち 19%を数値目標として設定する。そして 10 年後には 10 ポイント増の 26%を目標とする。

女性教員在職比率の目標達成のための具体的方策として、教員離職者数の半数を女性の採用とすることにより、平成 26 年度には 18%、平成 27 年度に 19%とすることを目指している。また、特に比率が低い教授職については、現在（平成 24 年度）の 13%から、平成 27 年度には 3 ポイント増の 16%を目指す。これらは第 4 期科学技術推進計画の目標達成となる。

4. 実施期間終了後の取組

男女共同参画推進室の充実により本事業で企画した活動を継続する。実施期間終了後の人件費などに関しては、競争的研究資金の間接経費により維持する。

また、京都府立医科大学男女共同参画推進センターとの連携により、本学を中心とする女性研究者支援・復帰支援の地域拠点として事業の発展を図り、社会貢献を行っていく。

5. 関連する取組状況

「次世代育成支援対策推進法」に基づき一般事業主行動計画を策定し、女性研究者支援活動を進めている。

6. 「京都府公立大学法人中期計画」の目標

男女共同参画社会の推進を図るために、教職員が働きやすいように勤務環境の条件を改善・整備する。

7. 実施体制

全学的な組織「男女共同参画推進委員会」を設置し、本事業の計画立案、実施、及び評価を行う。

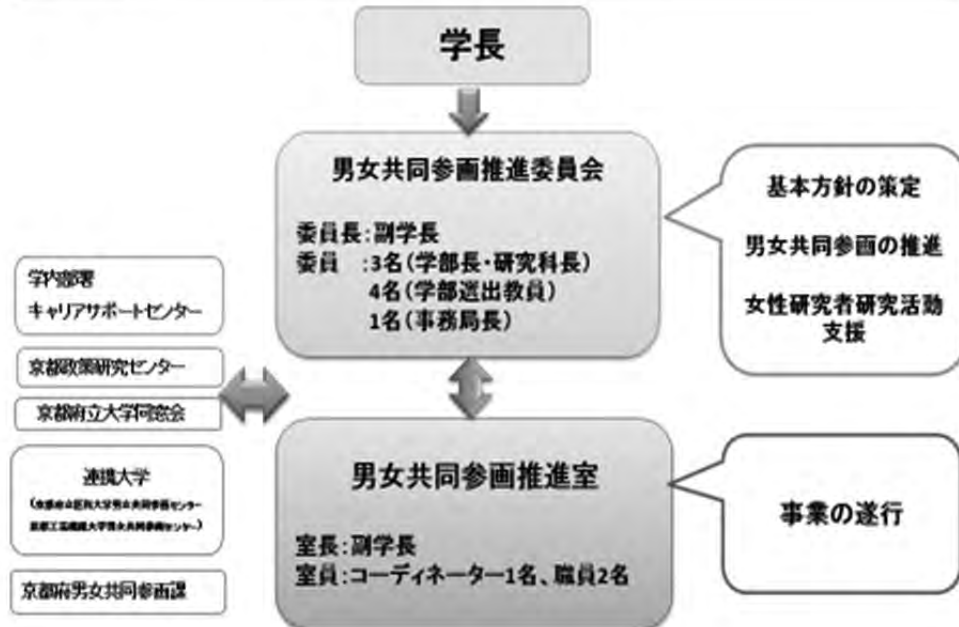
事業の遂行には、新たに設置した「男女共同参画推進室」が当たる。

「男女共同参画推進室」には、室長 1 名（学内兼務）、副室長 1 名、全体コーディネーター、特別研究補助員、事務員を配置する。男女共同参画推進室は下記の機関と連携を図り、事業を進める。

- ・ 学内の関係部局（キャリアサポートセンター、管理課、企画課、学生部、京都政策研究センター）
- ・ 京都府立大学同窓会
- ・ 京都府立医科大学男女共同参画推進センター
- ・ 京都府男女共同参画課



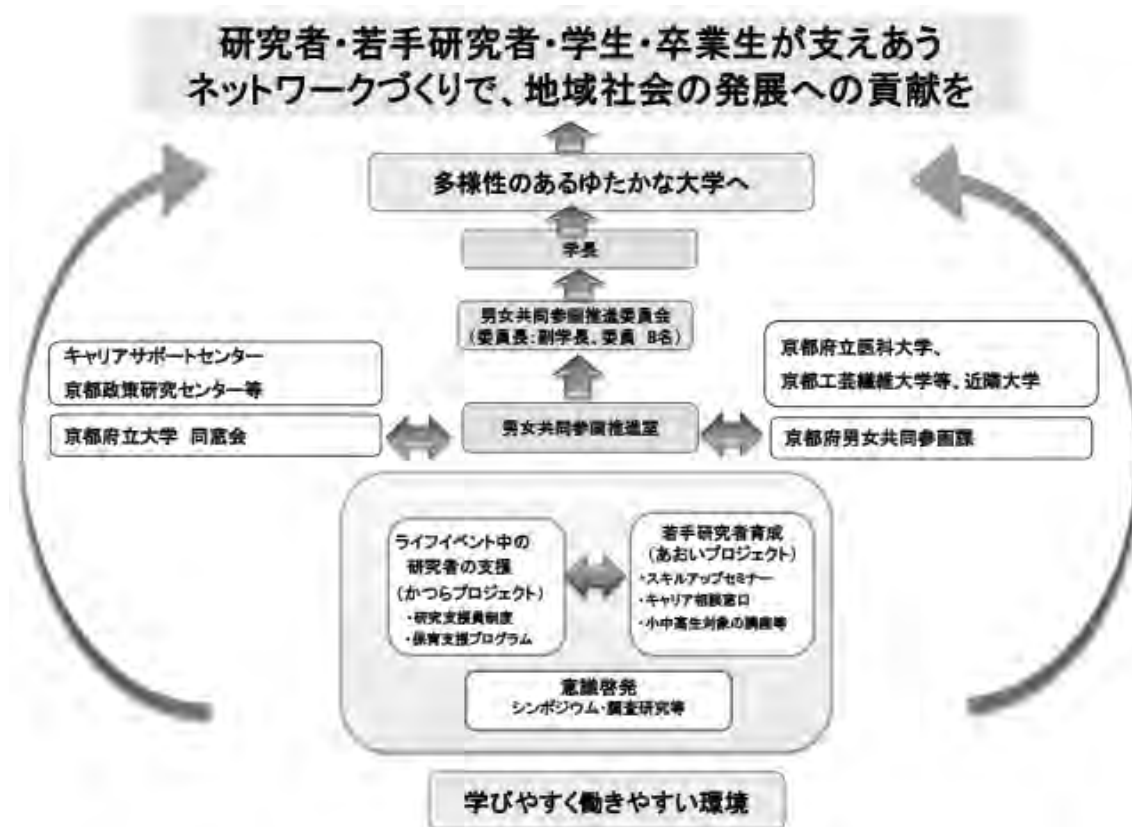
京都府立大学の男女共同参画推進 組織と体制



3. 事業の枠組

事業目的

意欲溢れる女性研究者が等しい機会のもとに生き生きと学び働く大学の実現を目指すと同時に、地域の「知の拠点」として男女共同参画の理想的なモデルを提示し、多様で優秀な女性研究者を育成し、高等教育研究機関としての社会的役割を果たすことを目的として、「女性教員・若手研究者・学生・卒業生が相互に支え合うネットワーク形成事業」を実施する。



研究者支援事業 (かつらプロジェクト)

子育てや介護等のライフイベント中の研究者を対象に、両立支援を行います。

若手研究者支援事業 (あおいプロジェクト)

若手女性研究者を対象に、キャリア形成の支援を行います。

意識啓発活動

地域社会との連携により男女共同参画社会の実現に向けた啓発活動を行います。

Ⅲ 事業報告

男女共同参画推進委員会 開催記録

第1回 男女共同参画推進委員会

日時 : 平成26年4月23日(水) 9:00～10:15

(審議事項)

1. 男女共同参画委員会副委員長の選任
2. プロジェクトリーダー及びプロジェクトメンバー選任
3. 研究支援員制度実施要項(案)及び利用者募集
4. 保育支援プログラム実施要項の改訂及び利用者募集

(報告事項)

- ・ 平成26年度(2014年度)事業計画
- ・ 男女共同参画推進委員会委員一覧及び男女共同参画推進室体制
- ・ あおいセミナー募集要項
- ・ 第1回あおいサロンの開催報告

第2回 男女共同参画推進委員会

日時 : 平成26年5月14日(水) 9:00～10:15

(審議事項)

1. 研究支援員制度申請者の選考、決定
2. 保育支援プログラム申請者の選考、決定
3. 「大学院生の現状とニーズ調査」

(報告事項)

- ・ 相談窓口・メンター制度創設の準備状況
- ・ 基本理念・基本方針策定の進捗状況
- ・ オープンキャンパス(7/19-7/20)でのイベント実施について
- ・ 夏期学童保育開催に向けた進捗状況報告
- ・ 補助金申請・報告

第3回 男女共同参画推進委員会

日時 : 平成26年6月16日(月) 9:00～10:15

(審議事項)

1. メンター制度登録者
2. オリジナルクリアファイルの制作について
3. 夏期学童保育

(報告事項)

- ・ 「大学院生の現状とニーズ調査」進捗報告
- ・ 第1回 メンター勉強会開催報告

第4回 男女共同参画推進委員会

日時 : 平成 26 年 9 月 1 日 (金) 10 : 30～12 : 00

(審議事項)

1. 研究支援員制度利用者の選考、決定
2. メンター制度実施要項の策定

(報告事項)

- ・ 第3回あおいサロン開催報告
- ・ 第4回あおいセミナー開催報告
- ・ 第2回メンター制度勉強会開催報告
- ・ 夜間・休日・病児保育利用実績報告
- ・ 7月19日～20日オープンキャンパスでのトークセッション開催報告
- ・ 学童保育「府大キッズ Labo」開催報告

第5回 男女共同参画推進委員会

日時 : 平成 27 年 3 月 10 日 (火) 10 : 00～11 : 30

(審議事項)

1. 研究支援員制度実施要項の一部改正について
2. 平成 27 年度 研究支援員制度利用者の選考、決定
3. 保育支援プログラム実施要項の一部改正について
4. 平成 27 年度 保育支援プログラム利用者の選考、決定
5. アドバイザリー委員会の設置について

(報告事項)

- ・ JST 現地訪問調査報告
- ・ 平成 26 年度女性研究者研究活動支援事業の取り組み状況
- ・ 平成 27 年度調書の共有

1. ライフイベント中の研究者を対象とした両立支援（かつらプロジェクト）

総 括

野口祐子 文学部教授

（男女共同参画推進室副室長 かつらプロジェクトリーダー）

本プロジェクトでは、昨年度に立ち上げた研究支援員制度、保育支援プログラムを中心に、出産・育児・介護に携わる研究者の支援を行った。両制度とも、適宜 JST からの指導を受けながら、推進室で申請者に対してヒアリングを行いニーズ把握をした上で、男女共同参画推進委員会で選考し、週 10 時間以内の配分を行った。本年度は利用研究者を特任教員・学術研究員まで広げたことで、男性研究者を含む育児・介護中の研究者への支援を適切に行うことができた。本制度は、保育支援プログラムと共に、業務・研究を遂行できる環境を整備する上で不可欠の支援であるといえる。

[研究支援員制度]

本年度は利用者が前期 9 名、後期 10 名であった。平成 26 年度第 5 回の男女共同参画推進委員会（平成 27 年 3 月 10 日開催）では学長、事務局長、各学部・研究科長出席のもと、7 名の利用者から具体的な内容・成果・課題について報告があり、意見交換を行った。以前は研究時間を十分取れなかったが、研究支援員が配置されたことにより、論文執筆・海外の学会での発表など、精神面のストレス軽減だけでなく、研究面での成果を出すことができたこと及び「支援員制度がなければ、調査は実現できなかった」等、本制度への謝意が表された。研究支援員制度の有効性ととともに制度を継続する必要性も明らかになったといえる。

[卒業生就業状況調査]

本学同窓会の協力を得て、卒業生の現在の就業状況とキャリア形成におけるライフイベントの影響度合いについて把握することを目的に卒業後、5 年、10 年、15 年の卒業生を対象としたアンケート調査を行い、276 名（回答率 36%）の回答を得た。本調査は今後の女性研究者支援事業のみならず、地域社会における大学の将来像を探る上で大変有益な調査となった。

[保育支援プログラム]

本年度は 8 名が利用登録し、そのうち 5 名が京都府立医科大学の病児保育室「こがも」又は病児保育、夜間・休日保育の民間事業者を利用した。次年度は、京都府立医科大学で来年度 11 月開所予定の保育室との連携を強化して、育児期間の支援を行いたい。

[その他の取組]

自主事業として、本学の教職員が養育する子どもを対象に、夏休みの期間中に 3 日間、学童保育を行った。また、出産を体験した女性研究者にヒアリングを行い、休暇を取得するための届出窓口や研究費の取扱い一覧に関する Q&A 集を作成した。次年度は、女性教職員対象のランチミーティングを複数回行い、ニーズの把握と女性教職員の交流の場を設置する予定である。

1-1 研究支援員制度

ライフイベント中の研究者を対象に、研究と出産・育児等の両立支援の環境整備を図るための研究支援員制度である。また、研究支援員には、本学の大学院に在籍する学生を雇用し、研究支援員の研究力向上にも繋っており、かつ、研究者を目指す大学院生にとって、研究者の日常の姿を垣間見ることは具体的なロールモデルに触れる機会となっており、副次効果も生まれている。なお、平成26年度より、対象者を常勤教員から常勤研究者(特任教員・学術研究員)まで拡大した。

<支援対象者>

支援対象者は、本学の常勤研究者（特任教員・学術研究員を含む）であって、以下に掲げるいずれかの項目を満たしている者とした。

- (1) 妊娠中の女性研究者、または妊娠中の配偶者を有する男性研究者
- (2) 女性研究者、または配偶者を有する男性研究者で、小学校6年生までの子どもを養育中の者
- (3) 女性研究者、または配偶者を有する男性研究者で、市町村から要介護の認定を受けている親族（同居、別居は問わない）を介護している者
- (4) 上記に準ずる理由により研究活動を行う時間が確保できない者
- (5) その他、男女共同参画推進委員会（以下、「委員会」という。）が必要と認める者

※ 産前・産後の特別休暇中、育児休業中などにより研究活動を中断している研究者は支援の対象になりませんが、産前・産後の特別休暇中、育児休業中などであっても何らかの形で研究継続が必要な研究者は申請資格を有する場合がありますので、事前に男女共同参画推進室へご相談下さい。

※ 男性研究者の利用の場合は、配偶者が大学・大学共同利用機関、独立行政法人で雇用され、日常的に研究を行う研究者である場合に限ります。

<スケジュール>

制度の見直し期間を設けたため、今年度は5月14日からの配置となった。

- ・ 平成25年度研究支援員制度利用教員報告会(計3回 4/23-4/25)
- ・ 平成26年度前期研究支援員制度利用者募集案内の確定
(4/23 第1回男女共同参画推進委員会)
- ・ 平成26年度前期研究支援員制度利用者及び研究支援員の選考、決定
(5/14 第2回男女共同参画推進委員会)
- ・ 前期研究支援員雇用開始(5/14～9/30)
- ・ 研究支援員ヒアリング(7月) 計12名
- ・ 後期募集の開始(8/12～)
- ・ 後期利用者及び研究支援員の選考、決定(9/1 第4回男女共同参画推進委員会)

- ・ 後期研究支援員雇用開始(10/1～3/20)
- ・ 平成27年度研究支援員制度利用研究者の選考 (3/10 第5回男女共同参画推進委員会)
- ・ 研究支援員制度利用研究者報告会・学長懇談会(3/10)

＜前期利用状況＞ 平成 26 年 5 月 14 日～9 月 30 日

支援者	女性研究者 6 名 (子の養育)、1 名 (介護) *1 名は重複
	男性研究者 2 名 (子の養育)
	平成 25 年度からの継続 8 名、新規 1 名
被支援者 (研究支援員)	大学院博士前期課程 5 名
	大学院博士後期課程 3 名
	博士前期課程修了者 1 名
	博士後期課程修了者 (本学学術研究員) 2 名
	学部卒業生 1 名

＜後期利用状況＞ 平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 3 月 20 日

支援者	女性研究者 7 名 (子の養育、妊娠・出産)、1 名 (介護) *1 名は重複
	男性研究者 2 名 (子の養育)
	平成 26 年度前期からの継続 9 名、新規 1 名 (妊娠・出産)
被支援者 (研究支援員)	大学院博士前期課程 6 名 (新規 2 名)
	大学院博士後期課程 3 名
	博士前期課程修了者 1 名
	博士後期課程修了者 (本学学術研究員) 2 名
	学部卒業生 1 名

＜成果＞

本制度の利用者からは、論文作成 5 本 (4 名)、学会発表 2 回 (2 名)、研究会の開催 (1 名)、科研費など共同研究への参加 (1 名)、外部資金獲得の準備ができた (1 名) という回答があり、研究支援員制度がなかった場合と比較して、研究成果において大きな成果があったという自己評価が寄せられた。

また、精神的に余裕が生まれたという回答も多く見られた。「支援員制度がなければ、研究継続が不可能であった」「研究者は常に業績を問われる立場にあるにも関わらず、育児でほとんど時間が取れず、肉体的にも精神的にもきつい状態が続いていたが、研究支援員の利用によって滞っていた研究活動を進めることができ、研究の発展へ思考を向けることができた」、「大学が出産育児介護を研究者の個人的な問題とせず、制度的に支援してくれているという精神的な安心感は『研究意欲の向上』において多大なる効果がある」との声が寄せられている。

＜平成 26 年度 研究支援員制度（後期） 実績報告 10 件＞

被支援者	A	B	C
業務内容	①関連資料のデータ入力とチェック 専門的知識が必要な二種類の資料のデータ入力をしてもらい、範囲を決めて定期的に提出してもらった ②最近の研究論文の情報収集 に関連する最近の研究論文をチェックしてもらった。	・研究資料の整理（データ化等） ・研究発表用ハンドアウトの校正	・文献と資料の入手および整理（主として、監視社会論、排除社会論、社会病理学、社会問題論） ・上記の文献と資料から得たデータの整理および入力 ・研究報告および発表における配布資料の整理および作成補助
研究推進における成果	①以下の研究活動において、入力データを活用することができた。 ・国内ワークショップ（2014 年 10 月開催）での口頭発表 ・科学研究費補助金の応募書類（2014 年 10 月提出）の作成 ・論文（2015 年 5 月刊行予定）の執筆 ・国際学会（2015 年 7 月開催予定）での口頭発表への応募 ②研究支援員の院生と研究上の共通の話題ができ、入力資料の特徴について話し合ったり、関連する最近の学界動向について情報交換を行ったりして、互いの研究の刺激になった。	期間中の研究業績は以下のとおり。 ・論文：1 件 ・発表：1 件 ・科研分担報告書作成 ・書評執筆以上のように、支援を受ける前と比べ、質・量ともに確実に業績を上げることができた。	・上記データの整理と入力を手伝ってもらったため、報告者は学会発表および論文の執筆の方に集中できた。 その成果 学会における研究報告 1 件 京都府立大学の学術報告 2 件 来年度の投稿論文の下準備 研究会の開催 ・以上、支援員の効果により、研究実績を着実に積み上げることができたことから、報告者の昇進にも目途が立った。
生活面における成果	・研究上の基礎データの電子化により、資料を巨視的・多角的に見ることが可能となり、より長期的な研究計画が立てやすくなった。 ・ふだんの授業や論文指導では自分の最近の研究成果をなかなか還元できないが、研究支援員の院生とは業務を通じてこちらの研究の現状を伝えやすくなったので、教育と研究との距離が縮まったと感じている。	作業を分担してもらうことにより、物理的・精神的負担が大きく軽減された。それにより、研究活動においては焦燥感が軽減し、比較的落ち着いた気持ちで資料に向き合うことができた。	理論的な研究の面に没頭できただけではなく、研究の推進を研究室単位で行う体制づくりが可能となった。昨年度は後者の点を意識することがなかったが、今年度は役割分担を意識しながら、取り組むべき作業を順序よく検討することができた。 ・こうした役割分担の結果、報告者が学内に留まる時間を減少させることができ、ワークライフバランスを改善することができた。データ処理に追い立てられると精神的にも疲労感が増すが、そうした作業から解放されることで、家庭生活も充実させることができた。
研究支援員 1	入力作業とチェックを行うことで、新たな発見が多数あり、自身の知識をさらに深めることができた。また、新たな分野への興味を抱くきっかけとなった。	学会発表の資料作成にあたっての手伝いは、自身の発表会での資料作成との良い比較例となり、勉強になりました。引用の方法や構成など、とても参考になりました。 研究書のコピーも自分の専門とは異なる文献と出会う機会となり、新しいアプローチのヒントにもなりました。英作文の添削は、自身が今後非常勤講師を務めるにあたっての良い練習となっています。手間やコツなどを感覚的につかむ事ができました。	・主として補助的な業務に携わっていたが、教員の研究活動推進に関わる場面が増えたことにより、前年度と比較すると若干自らの研究に対するフィードバックを得られた。 ・前年度に引き続き研究会のコーディネートおよび参加を行うことで、同世代の研究者と交流を図りネットワークを作ることができた。次年度は一定の形にまとめることができ、教員にとっても自身にとってもプラスに働くことが予想される。
研究支援員 2	エクセルを用いた入力作業をしていますが、扱っている文献資料が自分の研究内容に関連するものなので、研究上の問題点や新たな視点を発見するという点で役立っています。 また、エクセルの操作を行うなかで技術が向上していることも支援活動の効果の一つだと考えています。		前期から継続した活動であったため、自身の研究と研究支援活動との調整を図るなど、よりスムーズに活動を行うことができたと思う。 また活動を行うにあたり、必要な資料の受け取りや、業務の遂行状況を報告するために、定期的に先生の研究室を訪問した。その際、自身の研究内容や今後の方針に関する話を先生に聞いていただくことも多く、私にとっては大きな励みとなったと思う。

被支援者	D	E	F	G
業務内容	- 論文資料の収集と外国判例の検索 - アンケートの実施	申請者が調査を行っている「知的障害者の地域生活のための重度訪問介護の活用事例検討」の研究テーマに沿った、文献の収集を主な業務内容として依頼した。 また研究支援員と申請者の共通のテーマである地域生活支援の研究、とくに障害者総合支援法に基づくサービス等利用計画の推進状況についての研究会の運営を依頼し、実施した。	患者介入試験の補助 実験動物の飼育とサンプル採取・分析 調査の補助（保育所栄養士ヒアリングへの同行・記録、グループワーク準備・後処理、調査票の作成等）、 データ入力・解析等の研究業務の補助、論文投稿用図表案作成等	- データ入力、点検 - 収集データの整理 - 文献整理 - 論文投稿補助
研究推進における成果	研究論文の作成が進んだ。支援員を付けていただくことによって、今までは資料収集に膨大な時間を要していたが、その点を克服することができ、本来の研究活動により時間を割くことが可能であった。 後期は、関西学院大学の紀要『法と政治』に判例評釈を1本と本学の『福祉社会論集』に論文を発表した。またアメリカで出版される本2冊(題名未定)に共著者として原稿を執筆した。	申請者が後期は短時間勤務から通常勤務体制に戻ったが、配偶者の研究業務との調整のため大学で業務に携わる時間のほとんどは学生指導と講義準備にあてざるを得なかった。そのため、研究員が行った当該研究テーマの文献の収集は、申請者が最新の研究動向にキャッチアップしていく効果があった。 雇用期間中に発表された業績 障害者学会にて、報告を行うことができた。	研究業務に費やす時間が大幅に制限される中で、研究支援員による援助を得られたことにより、現在稼働中で中断できない研究を継続することができた。これらの研究で得られたデータをもとに、本年度末に提出する報告書を支障なく作成することができた。また、ひきつづき次年度の共同研究継続にもつながった。 妊娠・出産・育児で関係学会や国際会議での発表や論文投稿など研究成果を得るのが厳しい状況に陥るところを食い止めることができた。毎年参加している学会での発表や論文投稿ができた。次年度国際会議での成果発表も決定している。	研究結果をジャーナルに投稿することができ論文が受理された。また、この論文を基に、博士論文を作成し、審査を受けることができた。 また、2015年5月に横浜で開催される国際学会へ演題を提出し、発表が受理された。
生活面における成果	学内で使える時間が限られているので、支援員のお手伝いがあるため、研究に時間を割けている。資料収集のために大量の時間を割くことがないので、身体的にも本来の研究という仕事に集中できた。	申請者の「研究が出来ない、論文が読めない」という焦燥感を軽減する効果があった。	妊娠・出産によって研究成果を得ることはとても厳しくなるだろうと予測していたところ、研究支援員の利用により、非妊娠時と同等とまでいかないまでもゼロ回避できたことは、精神的な面で大変有益であった。 また、実験や調査を実施するには体力や気力を消耗するが、研究支援員の補助を受けながら行うことができたことで、身体的な負担が大いに軽減された。おかげさまで、出産まで体調を崩すことなく過ごすことができた。一方で支援員への人材育成の一旦として手技の技術面での継承ができたことは大きな収穫だった。	論文の再投稿、博士論文の作成、国際学会の演題登録にあたり、研究支援員の補助があることにより、効率的に作業を進めることができた。また、ディスカッションを通し、発表の内容や考察を深めることができた。

被支援者	D	E	F	G
研究支援員 1	先生から指示を受けた資料等の収集・整理を行った。また、学部生の意見を知る機会も設けてくださった。他学科の学生の意見を知る貴重な経験になった。私自身では思いもつかないような意見が多く、驚いた。出た意見について自分なりに考え、吸収することは改めて研究を見つめなおす機会になった。 資料や文献に目を通したりコピーをとったりする中では、先生の注目したものがどんなものなのか、それに対しどんな意見を持っているのかを知ることができた。また、それを自分の研究対象にどのように反映できるかなど、自分で考えるきっかけを与えてくださった。	今回の活動では、継続して知的障害者地域生活支援のための重度訪問介護の活用に関する日本、あるいは諸外国の書籍や論文を収集し、整理を行ってきた。また、調査遂行にむけて、さまざまな研究活動の補助を行った。 この活動をととして、知的障害者、とくに重度訪問介護を必要とする人の障害特性や地域生活支援上の問題など、多岐にわたって知見を深めることができた。また、報告者も精神障害者の地域生活支援の研究をしているため、対象者のもつ生活の困難さやニーズの違いを理解でき、参考となった。 こうした研究支援員の活動での経験を、今後の自身の研究においても活かしていきたいと考えている。	支援員として研究に携わることで、一学生として研究を行っていたときに比べより主体的に研究を行うことができた。特に食事調査の分析や、メディカルスタッフとのミーティングでは、自身で根拠を持ち意見することをより心がけられるようになった。また、研究業務を補助することで、結果をひとに見てもらいやすいよう工夫することができるようになり、大変自身のためになったように感じる。	今年度、研究支援員として従事させていただいた研究者は、今年度は学位取得をめざして、調査研究、英語論文投稿、博士論文作成を行われている方で、博士後期課程の私にとって学ぶことがたくさんありました。 特に、学位取得直前の後期にこのような身近な先輩に従事することによって、学位取得のために、いつどのような書類を作成しなければならぬかを把握することができるだけでなく、論文作成に費やす時間配分やペースなど、身近でないと分からないことも同時に学ぶことができ、大変勉強になりました。
研究支援員 2			妊娠、出産や育児をしながら研究を続けるのは時間的に難しいことだと思うので、力になれて良かった。 動物の飼育や解剖、実験手技の練習にもなったし、学部生への実験指導は実験の原理や細かい点について良い復習になり、自分の実験にも活かせたと思う。 また、研究テーマが違うので自分の研究だけをしていては得られなかった分野の知識や経験が得られ、視野を広げることができた。研究にはさまざまな視点からものごとを考えられる力が重要なので、とても良い経験になった。	

被支援者 (教員)	H	I	J
業務内容	受託研究「次世代に引き継ぐ森づくり事業」に関わる森林立地評価別の材積推定表作成にむけた解析、および GIS 解析。研究室の学部生、院生への基本的な GIS の利用方法の指導の実施。学生の調査の引率	報告者は都市近郊林における生物間相互作用ネットワークに着目し、森林の動態メカニズムや生物多様性の維持メカニズムを明らかにしている。その中で、研究支援員には、地域レベルでのブナ科の種子食昆虫相の把握や、種子更新に関わる要因の解明といった、新たな研究展開に関わる部分の研究補助を前期に引き続いてお願いした。	関連論文の収集等
研究推進における成果	本年度は研究室の運営を実施するとともに、合計 11 人の 4 回生、院生の研究指導を行ってきた。後期は講義時間数が前期に比べ格段に増えるにも関わらず、学生の調査は大詰めを迎える時期であり、調査に随行できないことで、学生の卒業研究の進捗に遅れが生じることが懸念されたが、研究支援員が調査の引率をしてくれたおかげで、学生の調査も期限内に無事終えることができた。卒業研究や修士論文の解析やまとめにあたっては、基本的な方法などについて研究支援員から学生に指導をしてもらうことができ、これらにより ACTR や科研に関わる研究で、問題の解決のため現場の人との連携が必要なものについて、現場での調査や議論を実践することができた。 3 月にはこれらの成果を踏まえたシンポジウムも、国際会議場で実施する予定となっている。また、本年の成果を生態学会、森林学会において発表する予定となっている。1 年を通して論文としてまとめられる研究成果も数多く得られ、来年度の前期に論文文化作業に取り組む素地を築くことができた。	多少は自分の時間が確保できるようになり、論文の投稿を行うことができると同時に、論文の投稿に向けたとりまとめ作業ができてきている。また掲載された論文および現在研究支援員に補佐してもらっている研究により、新たな共同研究への発展、また外部資金の獲得に向けた準備を行えるようになってきている。	時短勤務ながらも論文 1 件、学会発表 2 件と従来の成果を維持できた。
生活面における成果	本年度は、例年に増して多忙を極めることが予想された。3 人の子育てで帰宅時間が動かせない中で、これらの仕事をどのように調整しながら実施していくのか不安であった。研究支援員が受託研究の一旦を担い、かつ基本的な GIS の使用方法などを学生に教示してくれたおかげで、残業日数も月 1-2 回程度に抑えることができた。 何よりも、「頼れる人がいる」ということ、また支援員と研究室運営や研究についての苦勞を共有できたことは、1 日中多忙で切迫している状況が多い中、精神的に大きな支えとなった。 その一方で、大学の様々な事務作業が増加する中、事務作業を手伝ってもらえる人がいないことが、後期の大きな課題となった。多忙を極める中で、後期は前期より講義が多いため、せっかく支援員の確保によって得られた多くの時間が事務仕事に費やされるということも多くあった。このため、研究支援員の設置だけでなく、事務的な書類の作成などを行う秘書の設置などの制度があれば、研究に従事する時間を更に確保できるのではないかと思う。	研究支援員の雇用により、自分の生活を徐々に研究の方に振り向けることができるようになってきており、日々感謝の気持ちで過ごしている。また育児経験者の支援員には、育児での悩みなど相談することもでき精神的にも大変支えになっている。またこうした支援員と交流することで、私自身の世界が広がってきていると感じる。	研究支援員の利用により、保育園の送迎の時間に遅れることなく勤務することができ、子供の生活環境の維持や教員の精神的負担の軽減等大きなメリットがあった。

研究支援員 1	受託研究の内容は私がこれまで主体的に行ってきた研究とは解析手法が異なる。そのため、これまで培ってきた経験を活かしながら、新たな知識や技術を取得することができた。 また、私が所属する研究室では学生によって研究テーマが異なるため、卒業論文に向けた解析・執筆を指導する中で、自分自身も新しく学ぶことが多く、知識の取得ならびに技術の向上につながった。 以上のことから、将来研究職を志望する身として、研究支援員としての活動は、見識を深め、経験値を上げる大変良い機会であった。	前期同様、学生時所属していた研究室では扱ったことがない資料や器具を用い、研究の補助をさせていただきました。 多くの時間を必要とする子育てをしながらも、学生への指導や研究活動に熱心に取り組まれている先生、また先生の指導の元、地道にまた自発的に研究を行う院生や学生のいる研究室で仕事をさせていただいたことは、自分にとって意義深いものとなりました。	今年度、研究支援員として従事させていただいた研究者は、私の研究においてメインの実験手法である Western blotting 法も使用され、同じ手法で実験を行う私にとって学ぶことがたくさんありました。 特に、今年度は研究室内で Western blotting 法を用いる研究を行っている学生が私しかおらず、実験がうまくいかないときや失敗が続く時には大変心細かったのですが、支援員として従事させていただく中で、このような実験に関するお話もすることができ、大変勉強になりました。
研究支援員 2		この研究は、していることは同じ作業内容ではあるものの、種子、そして種子から芽生えた実生の成長過程を知ることができ、貴重な体験のできるものでした。森林に行くと実生はよく見かけるが、その土の下がどのようなになっているのかは分かりません。ましてや、それが時間経過とともにどのように変化していくのかはなかなか知ることはできません。それを学ぶことができ、とてもためになると感じました。	



研究支援員制度 利用研究者報告会

<その他>

出産を体験した女性研究者にヒアリングを行い、休暇を取得するための届出窓口や研究費の取扱い一覧に関する Q&A 集を作成した。

1-2 卒業生就業状況調査

本学同窓会の協力を頂き、卒業生の現在の就業状況と、キャリア形成におけるライフイベントの影響の度合いについて把握するため「京都府立大学卒業生就業状況調査」を行った。

本調査は、卒業生の中から研究者としてのキャリア形成や復職を望む研究支援員候補者を探し出し研究支援員として雇用すると共に、「人材登録データベース」構築に向けての基礎資料とすることを目的とした。

なお、同窓会と連携による卒業生を対象とした就業状況調査は本学初めての試みである。

<卒業生就業状況調査概要>

郵送によるアンケート調査（平成 25 年 11 月 26 日発送、12 月 20 日締切）

調査票送付対象者：829 名（学部卒業後 5 年、10 年、15 年）男性 263 名、女性 566 名

転居先不明による返送者：63 名

調査対象者：766 名

回答数：276 名（回答率 36%）男性 65 名、女性 211 名

調査項目

- ・ 卒業直後の就業状況について
- ・ 現在の就業状況について
- ・ ライフイベントが就業に与える影響について
- ・ 仕事と家庭の両立のために必要な取組について
- ・ 自由記述

調査報告書

- ・ 平成 26 年 12 月に刊行 ※調査報告概要は巻末資料を参照。



1-3 保育支援プログラム

女性研究者の出産・育児と研究活動の両立を支援することにより、研究活動が一層活性化するように、子どもの発熱時や夜間、休日に利用する保育利用料に対して助成をする制度の運用を開始した。昨年度に引き続き、保育支援プログラムの利用者を募集し、選考、決定を行った。

また、京都府立医科大学病児保育室「こがも」利用の覚書を締結し、7月より利用を開始した。

<スケジュール>

- ・ 京都府立医科大学病児保育室「こがも」（以下、「こがも」）現地説明会(4/16)
- ・ 平成26年度保育支援プログラム利用者説明会(4/23-25)
- ・ 平成26年度保育支援プログラム利用者募集案内の確定
- ・ （4/23 第1回男女共同参画推進委員会）
- ・ 平成26年度保育支援プログラム利用者の選考、決定
- ・ （5/14 第2回男女共同参画推進委員会）
- ・ 保育支援プログラム利用開始(5/14)
- ・ 「こがも」に関わる京都府立医科大学及び府立大学間の覚書の締結(5/23)
- ・ 「こがも」利用開始(7/1)

<支援対象者>

本学の研究者（特任、学術研究員を含む）で、下記のいずれかに該当する者

- ① 小学校6年生までの子どもを養育中の女性研究者
- ② 配偶者（大学等で日常的に研究を行う研究者に限る）を有し、小学校6年生までの子どもを養育中の男性研究者

<保育支援プログラム対象者>

6名（女性研究者4名、男性研究者2名）

<保育支援プログラム利用実績>

- 1) 京都府立医科大学病児保育室「こがも」
平成26年7月～平成27年2月 利用実績
延べ利用教員5名、利用時間33時間
- 2) 利用料助成（休日・夜間保育）
平成26年4月～平成27年2月 利用実績
延べ利用研究者7名、利用時間45時間

1-4 学童保育「夏休み府大キッズ Labo」(補助事業対象外)

「府大キッズ Labo」は、夏期休暇中の教職員の児童の保育を行うワーク・ライフ・バランス支援及び次世代を担う子どもたちが科学に関心を持つ機会を提供することを目的に初めて実施した。

本学教員による質の高いプログラム提供や、夏休みの宿題のサポートを行ったことから保護者・参加者からは大変好評であった。また、学内に日常的に子どもがいる風景は、女性研究者支援や男女共同参画の理解を深めることに多いに役立った。

日時：平成 26 年 8 月 4 日（月）～6 日（水） 9:00～17:00

参加者：延べ 30 名（3 日間）

教職員（特任教員・学術研究員・有期雇用の常勤職員を含む）の子ども（小学校 1 年生～6 年生） ※定員 10 名

参加者内訳：小学校 1 年生 2 名、2 年生 2 名、3 年生 1 名、4 年生 3 名、5 年生 1 名、6 年生 1 名（男性 4 名、女性 6 名）

場所：5 号館 5 3 5 1 号室（臨床栄養学実習室）他

参加費：無料（保険料は参加者負担）

保育体制：推進室員 2 名、保育スタッフ 3～5 名／日（委託先：特定非営利活動法人寺子屋共育轍）

保護者感想：

- ・ 夏休みの宿題が進んで助かりました。
- ・ 夏休みの自由研究に役に立ちました。
- ・ 保護者の仕事が良く分からなかったようですが、研究者という仕事や、小学校と大学の違いが少し理解できたようです。来年も開催してほしいです。



プログラム内容

	8月4日（月）	8月5日（火）	8月6日（水）
9：00-9：20	朝の会 副室長あいさつ	朝の会 副室長あいさつ	朝の会
9：20-10：30	オリエンテーション① 目標シートの作成 自己紹介シート作成	オリエンテーション② 目標シートの作成 大学はどんなところ？①	オリエンテーション③ 目標シートの作成 大学はどんなところ？②
10：30-12：20	学校の宿題タイム 読書、自主学習	学校の宿題タイム 読書、自主学習	学校の宿題タイム 読書、自主学習
12：30-13：20	昼食 (生協食堂又は保護者と昼食)	昼食 (生協食堂又は保護者と 昼食)	昼食 (生協食堂又は保護者と昼 食)
13：30-15：00	実験① 紫キャベツで 色の変化を楽しもう！ (1号館3F 1352) 生命環境科学研究科 リントウルオト正美 准教授	実験② 日光写真を作ろう！ ホットアイスを作ろう！ (1号館1F 1152) 生命環境科学研究科 高野和文教授	実験③ <u>お魚と健康</u> いりこの解体 かつお君であそぼう お魚と自然 (食育プログラム) (5号館3F 5351) 生命環境科学研究科 東あかね教授 中井結香氏（4回生）
15：00-16：40	コミュニケーションゲーム		紫キャベツの色素で お絵かき
16：40-17：00	終わりの会 お迎え	終わりの会 お迎え	終わりの会 副室長あいさつ お迎え



2. 若手研究者育成（あおいプロジェクト）

総 括

リントウルオト正美 生命環境科学研究科 准教授
(あおいプロジェクトリーダー)

事業採択 2 年目となる平成 26 年度は、キャリアアップ支援、相談体制の確立、女性ネットワーク形成、若手研究者の裾野拡大に本格的に取り組んだ。

キャリアアップ支援では、昨年度から継続してロールモデルセミナー（あおいサロン、あおいセミナー）を開催した（計 6 回）。当セミナー（あおいサロン、あおいセミナー）は優秀な女性研究者等を招聘しロールモデルとして提示し、少人数でキャリアパスを語り合う交流の場を設けることを目的とした。アンケート結果では「役に立つ」として回答した参加者は 100%にのぼり、社会で活躍する女性研究者とアットホームに意見交換できる場として好評であった。今年度は、特に研究力向上セミナーを重点的に行った。後述の「大学院生ニーズ調査」でニーズの高かった英語論文作成セミナー（3 回）、英語プレゼンテーションセミナー（2 回）、研究力向上セミナー（2 回）を行い、若手研究者を中心に幅広い層の参加があった。あわせて、本学の女性研究者や卒業生を紹介するロールモデル集を作成した。

また、相談体制の確立については、10 月に女性教員 17 名をメンターとするメンター制度を立ち上げた。本制度は、若手女性研究者の研究内容やキャリア形成上の悩みへの助言を行う制度で、計 4 名からの相談が寄せられた。

若手研究者の裾野拡大の取組として、「大学院生ニーズ調査」を行い（回答率 40%）、大学院生の研究生活及び女性研究者支援事業に求められることを取りまとめた。さらに自主事業として、高校生を対象としたオープンキャンパスにおいて、女性のキャリアデザインをテーマにしたトークセッションを行った。本学博士後期課程に在籍する女性院生や、本学と関わりの深い女性を講師に招き、研究生活が身近になったとして高校生とその保護者に好評であった。

次年度に向けての課題は次の 2 点である。1 点目は、広報に関して情報発信力の強化である。本学では、大学院生や学術研究員に対する情報伝達方法が限定的であり、所属する研究室の教員からの周知や、学内でのチラシ掲示に限られている。次年度はメーリングリストやメールマガジン等で情報発信力の強化に努めたい。2 点目は研究生活を送る上での様々な情報の共有や意見交換のためのネットワーク形成である。ライフイベント中以外の女性研究者も男女共同参画を進める一員であるという意識を共有する組織を目指しネットワーク形成をさらに進めていく必要があるだろう。ランチミーティングやワークショップ、セミナーの企画開催を行い、コミュニケーションを充実させ、教育研究上のつながりを拡大し深め、分野を超えた共同研究などの発展を目指したい。

2-1 キャリアアップ支援

ロールモデルセミナーとして、教員からの企画提案で行う「あおいセミナー」(計5回)と、少人数のワークショップ形式で行う「あおいサロン」(計3回)を開催した。「あおいセミナー」では、社会で活躍している女性研究者と個人レベルで意見交換するなかで女性大学院生等が研究者をめざすことを支援した。「あおいサロン」では、本学を卒業した先輩女性と直接触れる機会を提供し、キャリア・イメージを形成することを支援した。

また、「ロールモデル集 Vol.1～女性研究者・卒業生編」を作成し、ロールモデルの可視化を図った。

若手研究者の研究力向上の一環として、スキルアップセミナーを計7回開催した。さらに、若手研究者間のネットワーク形成を目的とした「たまごカフェ」を計2回開催した。

あおいセミナー（全回のアンケートを集約）

	日時	内容	参加者数
4	7月18日(金) 13:30～14:30	HIV-1由来の酵素の構造原理の研究とアメリカの大学院教育～女性研究者が語るアメリカの研究事情～ 伊島 理枝子 氏 Department of Structural Biology, University of Pittsburgh School of Medicines, Professor	12名 (学生・院生10名、 教員1名、職員1名)
5	12月12日(金) 13:00～14:15	My LIFE ～Inscrutable are the ways of Heaven～ 新納 愛 氏 (シミツク株式会社 臨床開発部)	17名 (学生・院生14名、 教員1名、一般2名)
6	12月12日(金) 14:50～16:00	英語は話せなくても。 必要なのは楽観主義、気合いと時々根性？！ 原田 康代 氏 (東京理科大学生命科学研究所分子病態部門 テクニシャン)	16名 (学生・院生15名、 一般1名)
7	1月19日(月) 15:00～16:00	土壌というブラックボックスを放射光で照らす新しい試み～農学系女性研究者の挑戦～ 山口 紀子 氏 ((独)農業環境技術研究所 主任研究員)	19名 (学生・院生17名、 教員2名)
8	1月26日(月) 17:00～18:00	漆とラック ～海外の研究家同士をも繋ぐアジアの天然素材～ 北川 美穂 氏 (工芸素材研究所主宰、工芸技法材料研究家 化財保存修復家)	23名 (学生・院生14名、 教員4名、職員4名、 一般2名)
合計			87名 (計5回)

※1～3回は平成25年度に開催

<アンケート結果> 全回答数 66 件

本セミナー内容は興味深かったですか。(全回のアンケートを集約)

①非常に興味深かった	②興味深かった	③あまり興味深くなかった	④全く興味深くなかった
28 (48%)	29 (50%)	1 (2%)	0 (0%)

本セミナーは今後の学生生活・職業生活に役立つと思いますか。(全回のアンケートを集約)

①大変役に立つ	②まあまあ役に立つ	③あまり役に立たない	④役に立たない
28 (42%)	36 (55%)	2 (3%)	0 (0%)

<アンケート感想>

- ・ 日本と米国の大学院制度に違いを知ることができてよかった。
- ・ アメリカの大学院教育について、日本と比べたシステムの違いや、研究者のライフスタイルについて
- ・ スピーカーの所属する所属学科では、研究者の男女比は半々であり、男女共に子どもの送り迎えなどのために夕方に帰宅する人が大半であるということに驚きました。
- ・ アメリカの大学院の仕組み
- ・ アメリカでの研究倫理や研究資金獲得の話が具体的で良かった
- ・ ひとつの会社に終身勤めるだけでなく、色々な体験をしながら働く道もあるということを示していただいたのは良いことだと思います。
- ・ 実際の働いている現状、特に女性への働く環境などがうかがい知れてよかったです。
- ・ 就職の際に学部卒と修士卒で給料が異なることによる企業側の採用基準との関係が大変興味深かったです。
- ・ 女性の理系キャリアにおいてどのタイミングで出産や育児をするのか気になります。
- ・ 聴いている側の人数が少ないことがもったいないと思いました。
- ・ 留学の成功談ではなく、辛いお話を教えてもらえて良かったです。辛いけれど、楽しそうでした。
- ・ これまでのキャリア形成過程のお話。その時にどんなことを考えていたか。
- ・ 研究で根周辺の栄養素について学んでいくので、根のまわりの鉄ブランク等の話はとても参考になりました。
- ・ 農環研における女性研究職員のワーク・ライフ・バランス向上の促進支援制度について、とても参考になりました。
- ・ 興味を持ったことに積極的に取り組む、連絡を取るという行動を起こすことが非常に大事だなと思いました。
- ・ 何事にも挑戦されているところ。1つのことに対して深い知識を持ってらっしゃるところ。
- ・ 海外へ行く機会を逃してはいけないと思いました。積極的に英語に取り組んでいきたいと思っています。

<今後、聞いてみたいテーマ>

- ・ 地方公共団体での技術職、研究職をやっておられる方。
- ・ 研究テーマをどんどん変えていった人。
- ・ 子育てしている研究者が働くことができる研究所
- ・ 外国で働く女性や、主婦と研究を両立させている人の話。今の若い研究者の話を聞いてみたい(20～30代など)



Academic セミナー

第4回あおいセミナー

学生・教員対象！

HIV-1由来の酵素の構造原理の研究と アメリカの大学院教育 ～女性研究者が語るアメリカの研究事情～

平成26年7月18日(金) 13:30～14:30
at 京都府立大学3号館 3階会議室



Prof. Rieko Ishima (伊島 理枝子教授)
Department of Structural Biology, University of Pittsburgh School of Medicine

私の研究室では、おもに、核磁気共鳴(NMR)を用いて、Human Immunodeficiency Virus (HIV)由来の酵素の構造やダイナミクスの研究をしています。

今回は、HIV-1 protease-Coverase transcriptaseについて報告をしたいと思います。

また、アメリカの大学院のシステムについても、紹介したいと思います。私の在籍する学術は、ほぼ半端の教員が女性ですが、男女を問わず、こちらの教員の生活スタイルについても触れたいと思います。

主催： 京都府立大学 男女共同参画推進室 (担当：長谷川・鈴木)
☎ 075-703-5143 E-mail danjo@kpu.ac.jp
協力： 生命環境科学研究科 生命分子化学科 横田研究室

*申込み不要。直接会場までお越しください。



Academic seminar

第5回あおいセミナー

学生・教員対象！

「あおいセミナー」は、新進気鋭の研究者から、研究職のキャリア形成のヒントを得るためのセミナーです。第5回目は、研究職として様々な組織で働いた経験をお持ちの新納愛さんをお招きし、ご自身のキャリア形成と働き方についてお話し頂きます。

My LIFE

～Inscrutable are the ways of Heaven～

人間万事塞翁が馬

2014.12.12 (金) 13:00～14:15

@ 図書館3階 視聴覚室

講師

新納 愛 氏 (シミック株式会社 臨床開発部)

メッセージ

岡山大学農学部卒業後、大学院修士課程に進み、超氷河期での就職活動では悩んだ末、研究アウトソーシングの会社に就職。しかし、なかなか外部就労先が決まらず、待機の日々。不安になりかけた入社2ヶ月後、ようやく派遣研究員という形で大学の研究プロジェクトの研究補助員として働き始める。専門外分野であったが、2ヶ月間の待機(休息)のお陰で、働くこと・研究することの喜びを改めて痛感し、夢中で勉強・実験をこなす。その甲斐があったか、翌年度からは派遣契約を打ち切り大学の特任研究員に推して貰い、学会・学術論文の発表や受賞も経験。その後、大学発ベンチャーの研究リーダーを経て、自身の更なるステップアップを目指し、医薬品開発受託企業に転職。現在は臨床開発モニターとして、仕事は大変で忙しいながらも楽しくて。一見、傍からみれば惨敗にも見える就職活動も、自分の考え次第で必ず道は拓ける(と思う)。

主催： 京都府立大学 男女共同参画推進室 (担当：長谷川・鈴木)
☎ 075-703-5143 E-mail danjo@kpu.ac.jp

協力： 生命環境科学研究科 生体物質化学研究室

*申込み不要。直接会場までお越しください。

Academic seminar

第6回あおいセミナー

学生・教員対象！

「あおいセミナー」は、新進気鋭の研究者から、研究職のキャリア形成のヒントを得るためのセミナーです。第6回目は、米国の研究機関で勤務経験をお持ちの原田康代さんより、海外生活の体験談やキャリアの切り開き方についてお話し頂きます。

英語は話せなくても。。。。

必要なのは楽観主義、気合いと時々根性？！



2014.12.12 (金) 14:50～16:00

@ 図書館3階 視聴覚室

講師： 原田 康代 氏

東京理科大学 生命科学研究所 分子細胞部門 テクニシャン



東京理科大学生命科学研究所修士卒業後、東京大学医学部細胞情報学講座やアメリカにあるLa Jolla Institute for Allergy & Immunologyにて更なる理解出来ないにも関わらずテクニシャンとして研究をヘルプする仕事に携わる。現在は東京理科大学生命科学研究所にて教授にコッパリながら同様の仕事に日々没頭している。

メッセージ：

あまり深く考えずほば勢いで結婚し夫の海外研究留学へ付いて行くことになった結果、あまりの英語の出来なさにちょっとした引きこもりに。。。これはイカンと無料の英語学校に通ってみることを決断。ある日、研究所で行われたパーティにて軽い気持ちで参加して来ると言ってみたら本当に働ける事になったがそこでもあまりの英語の通じなさ、分らないにゲンナリする毎日。そんな日々を過ごした中から得た、感じた、多くの体験を学生さんに少しでもお伝えできればと思います。

最後に、海外に行く事、結婚する事、何でもいかに挑戦して楽しむ事に少しでも興味を持って頂ければ幸いです。

主催： 京都府立大学 男女共同参画推進室 (担当：長谷川・鈴木)
☎ 075-703-5143 E-mail danjo@kpu.ac.jp
協力： 生命環境科学研究科 生命物理化学研究室

*申込み不要。直接会場までお越しください。

Academic seminar

第7回あおいセミナー

学生・教員対象！

「あおいセミナー」は、新進気鋭の研究者から、研究職のキャリア形成のヒントを得るためのセミナーです。第7回目は、(独)農業環境技術研究所で主任研究員を務める山口紀子さんにお話し頂きます。

土壌というブラックボックスを
放射光で覗く新しい試み

2015.1.19 (月) 15:00～16:00

@ 図書館3階 視聴覚室

講師：

山口 紀子 氏

(独)農業環境技術研究所 主任研究員



私は、土壌中の有害化学物質がどのような化学形態で存在しているかについて研究しています。化学形態を調べるツールとして、「シンクロトロン放射光X線」を使っています。私がアメリカ留学中に土壌研究へのシンクロトロン放射光X線の応用に出会った経験、そしてそれを日本で展開してきた過程を、研究内容を交えながら紹介したいと思います。

◆ 内容：

農作物が土壌から吸収する有害化学物質は、その元素が土壌中でどのような化学形態によって大きく異なります。これまで、土壌中の有害化学物質の化学形態に関する情報は、抽出試験によって土壌を「溶解」することで得られてきましたが、抽出の過程で形態変化が問題とされてきました。XAFS法は、高エネルギーのX線を試料に照射し、その吸収スペクトルを解析することによって元素の化学形態を明らかにする手法です。本セミナーでは、このXAFS法を用いることではじめて明らかになってきた、土壌中の有害化学物質の化学形態の実態についてお話しいただきます。また、ご自身の自己紹介として、女性が少ない農学分野における女性研究者のキャリアの積み方についてもお話しさせていただきます。

主催： 京都府立大学 男女共同参画推進室 (担当：長谷川・鈴木)
☎ 075-703-5143 E-mail danjo@kpu.ac.jp

協力： 生命環境科学研究科 土壌化学研究室

*申込み不要。直接会場までお越しください。

Academic seminar

第8回あおいセミナー

学生・教員対象！

「あおいセミナー」は、新進気鋭の研究者から、研究職のキャリア形成のヒントを得るためのセミナーです。第8回目は、工芸素材研究所を主宰し、工芸技法材料研究家かつ文化財保存修復家の北川美穂さんにお話しします。

漆とラック

海外の研究者同士をも繋ぐアジアの天然素材



2015/01/26 (月) 17:00-18:00

@ 図書館3階 視聴覚室

講師：

北川 美穂 氏 (工芸素材研究所主宰)

工芸技法材料研究家、文化財保存修復家

東京藝術大学美術学部工芸科漆器専攻卒、同修士課程修了。
古儀文化財修復所、国立歴史民俗博物館、東京国立博物館で勤務後、文化財保存修復職員としてラッカー技法研究のためロンドンに渡航。シディル・ルズ・オブ・ロンドン美術学校保存科、ヴィクトリア・アルバート博物館研究員を経て、東京藝術大学で文化財博士号を取得。京大エジプト博物館保存センター事業、東京国立博物館保存修復課などで勤務後、工芸素材研究所を開設し活動中。

内容：

漆は英語で「Asian lacquer」ですが、このlacquerの語源となっている「ラック」は東南アジアの国々で採取されています。北川氏は大学で漆の制作を始め、その後文化財修復の道に進んだことでラックと出会い、イギリスでラック塗装技法を研究し、帰国後はアジアを中心に漆とラックの研究を平行して行われています。漆よりも日本人の身近にある「ラック」と、アジアの「漆」を通しての海外の研究者とのネットワークの形成など、個人研究家としての現在までの活動などについてもお話しします。また、専門性の高い分野の研究者のキャリア形成についても紹介いたします。

丹波漆の木(上)
インドのラック農家(下)

申込みは不要です。直接会場までお越しください。

協力：生命環境科学研究科 材料設計学研究室

主催：京都府立大学男女共同参画推進室(担当：長谷川・鈴木) 共催：環境・情報科学科グリーンセミナー

あおいサロン

	日時	内容	参加者数
2	5月29日(木) 16:30~17:40	相談する力と切り開く力 朴木 佳緒留氏（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授学長補佐(男女共同参画担当)）	8名（学生・大学院生3名、教員1名、職員4名）
3	7月3日(木) 16:10~17:40	デザインする思考 高取 愛子氏（京都大学大学院工学研究科工学研究科附属グローバルリーダーシップ大学院工学教育推進センター講師）	25名 （学生11名、院生4名、教員4名、職員6名）
4	12月22日(月) 18:00~19:30	日本の草分け 京都の手話通訳者と共に歩んで ～これからの手話通訳制度、聴覚障害者福祉を考える～ （京都政策研究センター「下鴨サロン」との共催） 小森 典 氏（京都府乙訓教育局企画教育課主査）	22名 （学生2名、教職員・一般20名）
	合計		55名（計3回）

※第1回は平成25年度に開催。

＜アンケート結果＞ 全回答数 24件

本サロンは今後の学生生活・職業生活に役立つと思いますか。（全回のアンケートを集約）

①大変役に立つ	②まあまあ役に立つ	③あまり役に立たない	④役に立たない
18 (78%)	5 (22%)	0 (0%)	0 (0%)

＜感想＞

- ・ 自分が抱えている不安が完全に解消したとは言えないが、これからどんな風に「現実的な状況」に面するかが一番はっきりしたところです。
- ・ 女性としては、厳しい社会の中で、やはり自分の知識を活かし、自己実現を達したいと考えていますので、乗り越えるように努力したいです。
- ・ 大変だったけど、どうにかやってきた、という話を聞いて、「何とかなる」とあまり悲観せず、マイナスに考えないでとにかく仕事をがんばろうと思いました。
- ・ 講師の方の視点から実体験を伺いましたので、そのすべてが重みのある役立つお話でした。家庭生活の維持や子育て、ご自身のキャリアについてどう考えてこられたのか等、生きる必死さが伝わってきました。
- ・ 女性研究者も目指す者として、妊娠・出産をしたときにどのように研究活動と家庭を両立するのかというお話が非常に興味深かったです。また、分野は違いますが、問題を解決するための思考方法（ステップ）も大変参考になりました。
- ・ 丁寧に、キャリアと私生活とその時の気持ちの変化をお話されていて、とても聞きやすかったです。自分の気持ちへの向き合い方が参考になりました。
- ・ 今の学生はすぐ調べることのできる環境にいるため深く考えることが少ないという話について、自分自身すぐ諦めることについて見直すべきだと感じました。

＜今後、聞いてみたいテーマ＞

- ・ 男性のスピーカーがいらっしゃっても面白いのかなと思いました。あとは若い人の方が、共有できるものが多くてモデルにしやすいかもしれません。
- ・ これまでのようなものをお願い致します。第1回あおいサロンも、今回第2回目も、女性が仕事をする、研究するためには内的（精神的）な気迫が必要だと気付かされ、そこから生活における工夫が生まれくるのだと学んでいます。ありがとうございました。
- ・ 今後も第一線で活躍されている研究者、起業家の方をお招きして頂ければ嬉しいです。



文部科学省 平成26年度科学技術人育成費補助事業
「女性研究者研究活動支援事業」若手研究者育成プロジェクト

こんな人に
おすすめ！

- 研究者のキャリアパスについて知りたい
学生・院生（男性も大歓迎）
- ライフサイクル（結婚・出産・育児）との
付き合いを考えたい学生・院生・教職員

「あおいサロン」は、先輩に出会い、
将来の働き方・生き方のヒントを得る、
少人数のサロンです。
毎回、ゲストをお迎えして、参加者
との対話形式で進めていきます。

第2回あおいサロン これからのキャリアデザインを考える ～相談する力と切り開く力～

2014年5月29日(木)16:30～17:30

(5号館 3F 臨床栄養学実習室 5351号室)



スピーカー：朴木 佳緒留先生

(神戸大学大学院人間発達環境学研究所 教授)

鹿児島女子短期大学、金沢大学教育学部を経て、1983年に神戸大学教育学部に着任。1996年より発達科学部教授、神戸大学男女共同参画推進室長(2007～2010年)、神戸大学大学院人間発達環境学研究所長、発達科学部長など歴任。現在は神戸大学大学院人間発達環境学研究所教授、学長補佐(男女共同参画担当)。専門領域は教育学(社会教育、ジェンダー論)。

神戸大学男女共同参画推進室初代室長として、多くの学生、大学院生、若手研究者を支援をされてきた経験から、キャリアの継続を考える上で必要な力について、自らの体験を踏まえてお話いただきます。

主催：京都府立大学 男女共同参画推進室（担当：鈴木・長谷川）

TEL 075-703-5143 E-mail danjo@kpu.ac.jp

* 当日の参加も可能ですが、事前の申し込みをお願いします。
氏名、所属、メールアドレスを記入の上、上記まで申し込みください。



文部科学省 平成26年度科学技術人育成費補助事業
「女性研究者研究活動支援事業」若手研究者育成プロジェクト

デザイン・インテリア・食生活・環境
専門の先生 / 池田 美穂 先生

卒業生に会いにいこう

第三回あおいサロン

「あおいサロン」は、先輩に出会い、将来の働き方・生き方についてのヒントを得る、少人数のサロンです。毎回ゲストをお迎えして、参加者との対話形式で進めていきます。



第3回 あおいサロン デザインする思考

日 時：2014年7月3日(木) 16:10～17:40

会 場：5号館 3F 臨床栄養学実習室 5351号室

スピーカー：高取 愛子さん

高取 愛子 氏(博士(工学))

京都大学大学院工学研究科 工学研究科附設グリーン・ビルリーダーシップ工学教育推進センター講師
ブリヤデザインー協理/土庫所 アドバイザー

1998年京都府立大学生活科学部生活科学卒業後、Berlage Institute (オランダ) 建築学大学院を経て、

京都大学大学院工学研究科へ進学。卒業後に様々な設計教育を行うとともに、

住む人にとって「最高の (private)」ものでありつづける空間創造を目指した作品を展開。

中野建築院、住まいのリフォームコンクール理事、京都デザイン賞受賞。

京都府立大学 男女共同参画推進室 担当：長谷川・鈴木 / TEL: 075-703-5143 E-mail: danjo@kpu.ac.jp

当日の参加も可能ですが、事前の申し込みをお願いします。氏名、所属、メールアドレスを記入の上、上記まで申し込みください。

平成26年度

第4回下鴨サロン & 第4回あおいサロン

〔京都府立大学 下鴨サロンの開催〕

〔男女共同参画推進室 ロールモデルセミナー〕

特別
企画

日本の草分け

京都の先輩手話通訳者と共に歩んで

～これからの手話通訳制度、聴覚障害者福祉を考える～



小森 典
京都府乙訓教育局
企画教育課主査

* 12月22日(月) 18:00～19:30
* at 京都府職員研修・研究支援センター
2F 視聴覚室

* 予約・問い合わせ お申込み
京都府立大学男女共同参画推進室 鈴木 有山
Tel 075-703-5319 E-mail: kpu1info@kpu.ac.jp



要約筆記通訳等が必要
な方は、必ず事前に
上記メールアドレスに
ご連絡ください。

経歴

1991年に京都府立大学文学部文学科(国文学・中国文学専攻)を卒業し、同年、京都府庁入庁。
向日市立の学芸員として活躍中。現在は、聴覚障害者の父、後援者の娘と暮らすバイリンガル生活。

大学入学と共に学び始めた手話との関わりは四年連続無休でした。
全国手話通訳研究会に所属。日々、機関紙「手話通訳研究」の編集にも関わり、聴覚障害者のくらしの向上や手話通訳制度の拡充を求めて、全国の手話通訳者と共に活動してきました。
日本の手話通訳制度を牽引してきた京都の先輩通訳者の姿に学び、がむしゃらに歩んできた日々。手話通訳者の毎日、手話通訳制度の課題、聞こえない人々の人生を通して学んだたくさんのこと、思いつづきまに話してみたいと語り継ぎます。
日本も障害者権利条約を批准し、全国各地で手話を公認と認める条例が制定・施行されていけば、国・自治体の権利の保障、合理的配慮・・・まはば、京都府庁で、地方大学で、どんなことに取組めるのか。まだまだ子育てモードの娘ですが、皆さんと一緒に考え、これからおもしろいことが始まりそう！そんな夜にしよう。

※「あおいサロン」とは、自分自身の研究内容等、広く市民の関心にも関するテーマ、市民と研究者による「アットホームな対話」の場として開催しています。参加費は無料です。参加希望の方は、事前に主催者から連絡をいただければ幸いです。
※「あおいサロン」は、研究費等の助成が得られず、参加費も負担していただく場合があります。少人数のワークショップ形式で、これからの働き方やライフスタイルについて語り合います。参加費は別途お支払いください。交流を促す場として開催しています。

たまごカフェ（交流サロン）

今年度の事業計画では「女性若手研究者の将来に対する不安解消や精神的支援を目的として専門カウンセラーによる相談窓口を開設し相談事業を実施する」としていたが、大学院生・若手研究者へのヒアリングの結果から、まずはセルフケアや予防に重点を置くこととし、困難を乗り越える能力を身につけるためのストレスマネジメント・自己理解等のワークショップを開催する方向に軌道修正し、大学構内の Deli Café たまごにて、「たまごカフェ」として開催している。研究科の壁を超えて、相互に相談しやすい環境の醸成をめざしている。

	日時	内容	参加者数
1	11月21日(金) 13:00～14:00	男性研究者が、女性研究と、生活すること 中根 成寿 氏（公共政策学部福祉社会学科 准教授）	10名 （学生5名、院生4名、学術研究員1名）
2	1月26日(月) 14:30～15:50	ストレスとの上手な付き合い方 ～自分のコミュニケーションの癖を知ろう～ 岡 桂子 氏（学生相談室カウンセラー・臨床心理士）	9名 （学生3名、院生3名、職員3名）
合計			19名（計2回）

＜アンケート結果＞ 全回答数 17件（全回アンケート集約）

①非常に興味深かった	②興味深かった	③あまり興味深くなかった	④全く興味深くなかった
13 (76%)	4 (24%)	0 (0%)	0 (0%)

本セミナーは今後の学生生活・職業生活に役立つと思いますか。（全回アンケート集約）

①大変役に立つ	②まあまあ役に立つ	③あまり役に立たない	④役に立たない
13 (76%)	4 (24%)	0 (0%)	0 (0%)

＜感想＞

- ・ パートナーとの依存しない、自立した関係が参考になった。
- ・ 研究者という職の実情（就職まで、パートナーとの生活）は興味深かったと思います。似たような生活サイクルの職業でも生産時間とケアの問題は抱えているのではと予想しています。
- ・ 研究者を目指すことがそんなにリスクが高いとは思いませんでした。ある程度お金があるか稼ぐ手段がほかにないと、研究を続けることはできないんですね。研究者ってもともとお金も時間もある人ばかりだと思っていました。
- ・ 研究者同士の家庭だけでなく、共働きの家庭に対しての参考にもなりました。（生活スタイル、子どもの育て方）
- ・ ストレスにも2パターンあるとわかった。攻撃的な人達もストレスを感じているとは思わなかった。
- ・ アサーティブな言い方は非常に大切だと思うし、実際、私のまわりにも不足していると思う。もっとたくさんの人に知ってほしい。その中で私も身に付けていけたらと思いました。
- ・ コミュニケーションの大切さ。また、上司や教授など立場が上の人でも、関係は対等だと考えることの大切さなど、参考になりました。

＜今後、聞いてみたいテーマ＞

- ・ ゲストスピーカーが講義や大きなシンポジウムでは話せない内容（プライベートとは限らずとも）が耳にできれば「たまごカフェ」の特徴になるのではないのでしょうか。第1回面白かったです。
- ・ 人脈の広げ方。プレゼンの苦手意識の改善など。
- ・ 女性研究者の産後体験。

男女共同参画推進室主催
院生・学生のための交流サロン
たまごカフェ

府大若手教員が語る研究者の道のり
院生・学生の気軽な交流会

学生・院生のみならず職員も、活発なための「新化」の場になりますように。
そんな願いをこめて「たまごカフェ」と命名しました。

第1回
「男性研究者が、女性研究者と、生活すること」
講師：中根 成寿（公法政策学部福祉社会学科准教授 専門領域：障害者福祉・家族論）
対象：院生、学生、他

日時 11月21日（金）13:00-14:00（前半：録音配信、後半：懇話会）
場所 京都府立大学内 稲盛記念会館1階
京都北山 Deli Cafe たまご（南東スペース）

お問い合わせ：京都府立大学 男女共同参画推進室（担当：高谷川・鈴木） TEL 075-703-5143 E-mail danjo@kpu.ac.jp

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」若手研究教育プロジェクト



男女共同参画推進室主催
院生・学生のための交流サロン
たまごカフェ

たまごカフェ第2回目は、
「コミュニケーション」がテーマです。
研究や論文の合間に、少し立ち止まって、
自分自身の「こころ」のことを考えてみませんか？
明日への力が湧いてくるかもしれません。

自分でもできるストレスマネジメント。
院生・学生の気軽な交流会

学生・院生のみならず職員も、活発なための「新化」の場になりますように。
そんな願いをこめて「たまごカフェ」と命名しました。

第2回 ストレスとの上手な付き合い方
～自分のコミュニケーションの癖を知ろう～

講師 岡 桂子 氏（水学学生相談室 カウンセラー）
対象 院生、学生、他（どなたでも参加頂けます）

日時 1月26日（月）14:30-15:50
場所 京都府立大学内 稲盛記念会館1階
京都北山 Deli Cafe たまご（南東スペース）

※ 申込み不要、ワンドリンク制（コーヒー100円程度）
お問い合わせ
京都府立大学 男女共同参画推進室（担当：高谷川・鈴木） TEL 075-703-5143 E-mail danjo@kpu.ac.jp

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」若手研究教育プロジェクト



研究力向上セミナー

英語論文執筆セミナー

日時：第1回：9月8日(月)、第2回：9月22日(月)、第3回：9月29日(月) 13:00～17:40

講師：野口ジュディー・津多江氏(武庫川女子大学薬学部教授)

参加者：第1回17名(学生・大学院生10名、教員4名、研究室補助員3名)

第2回12名(学生・大学院生8名、教員2名、研究室補助員2名)、第3回(大学院生4名・教員3名)

英語プレゼンテーションセミナー

日時：第1回 2月24日(火) 13:30～17:50、第2回 3月13日(金) 13:00～17:50

講師：野口ジュディー・津多江氏(武庫川女子大学薬学部教授)

参加者：第1回 15名(学生・院生9名、教員5名、教室補助員1名)

第2回 8名(学生・院生5名 教員3名)

<アンケート結果> 全回答数 35件

本セミナー内容は研究を進める上での参考になりましたか。(全回のアンケートを集約)

①非常に参考になる	②参考になる	③あまり参考にならない	④全く参考にならない
28 (80%)	7 (20%)	0 (0%)	0 (0%)

文部科学省 平成26年度科学技術人材育成推進事業
「女性研究者研究活動支援事業」若手研究者育成プロジェクト

実践的論文の書き方講座!!

英語論文執筆セミナー

—コンピューターを用いた hands-on workshop—

2014/9/8(月)・9/22(月)・9/29(月) (全3回)
13:00～17:40 @ 情報処理室

講師：野口ジュディー・津多江 先生
(武庫川女子大学薬学部 教授)

男女共同参画推進室では、若手研究者育成事業(あおいプロジェクト)の一環として「英語論文執筆セミナー」を開催します。講師には、長年英語論文の校閲に携わり、著書も数多く出版されている、武庫川女子大学教授 野口ジュディー・津多江先生をお招きします。野口先生にはPCを使いながらワークショップ形式で講義頂きます。英語論文を作成中または今後執筆する可能性がある方は、是非ご参加ください。

対象 主に理系の大学院生以上(学生、院生、研究者)
ただし、学部生でこれから英語論文を書くという学生にも参考になる内容であり、文系の応用言語学や教育学の論文にも通じる手法でもあるので、これらをふまえて、各自で判断の上お申し込みください。

内容 コンピューターを用いたワークショップ形式で、研究分野のコーパスを作り、corpus discoveryや簡単な言語分析を行う。※各回の具体的な内容は裏面参照。

使用教材 野口先生の著書「理系たまごシリーズ(3) 理系英語のライティング」(アルク、2007、価格(税込)4,104円)を個人または研究室で購入してください。講義では、本書付属のCD-ROMに収録されているコンコーダンスプログラムを使用します。

申込み切 9月1日(月) ※定員50名に達し次第、募集を締め切ります。

申込み先 京都府立大学 男女共同参画推進室(1号館3階)(担当：長谷川・鈴木)
TEL: 075-703-5143 Mail: danjo@kpu.ac.jp
電話、メールにてお申し込みください。

主催：京都府立大学 男女共同参画推進室

文部科学省 科学技術人材育成推進補助事業「女性研究者研究活動支援事業」若手研究者育成プロジェクト

男女共同参画推進室主催スキルアップ講座

英語プレゼンテーションセミナー

—成功する理系英語プレゼンテーション—

日時 2015/02/24(火) 13:30～17:50
03/13(金) 13:00～17:50 (全2回、単日の参加も可)

会場 1号館2階 情報処理室

講師 野口ジュディー・津多江 先生
武庫川女子大学薬学部 教授

男女共同参画推進室では、若手研究者育成プロジェクトとしてのスキルアップ講座「英語プレゼンテーションセミナー」を開催します。講師には、前回好評のうちに終了した「英語論文執筆セミナー」でも講師を務めて頂いた武庫川女子大学教授の野口ジュディー・津多江先生をお招きします。PCを使いながらワークショップ形式で講義頂きます。学会発表等で英語によるプレゼンを行う機会のある方は、是非ご参加ください。

対象 主に理系の大学院生以上(学生、院生、研究者)
ただし、学部生でこれから英語プレゼンをする必要とする学生にも参考になる内容であり、文系にも通じる内容でもあるので、これらをふまえて、各自で判断の上お申し込みください。また、本学を含めた三大学(京都府立医科大学、京都工芸繊維大学)に所属する方にもご参加いただけます。

内容 2/24 1. Planning your presentation(organizing ideas)
2. Preparing PowerPoint slides (learning about practical tips)
3. Practicing with sounds (using Web materials)
3/13 4. Checking drafts (rhetorical, grammatical, semantic choices)
5. Preparing for Q&A (useful expressions)
6. Presenting your research (evaluating others)

使用教材 野口先生の著書「Judy先生の成功する理系英語プレゼンテーション」(講談社、2014、価格(税別)2,800円) (ISBN: 978-4-06-155620-3)を個人または研究室で購入してください。

定員 約50名 先着順/事前申込制

申込方法 参加を希望される方は、氏名・所属・メールアドレスを記入の上、下記まで申し込みください。

申込/問合せ 京都府立大学 男女共同参画推進室(1号館3階)(担当：長谷川・鈴木)
TEL: 075-703-5143 Mail: danjo@kpu.ac.jp

- ・ 研究力向上セミナー ※企画課地域連携センターと共催

第1回「産学公連携のありかた」

日時：3月10日（火）14：30～15：30

講師：立川正治氏（京都産学公連携機構スーパーコーディネータ）

参加者：31名（学生・院生2名、教職員28名）

<アンケート結果> 全回答数 21件

本セミナーは今後の学生生活・職業生活に役立つと思いますか。

①大変役に立つ	②まあまあ役に立つ	③あまり役に立たない	④役に立たない
5 (24%)	15 (71%)	1 (5%)	0 (0%)

第2回「研究資金獲得セミナー」

日時：3月27日（金）13：00～14：30

講師：塩満典子氏（宇宙航空研究開発機構（JAXA）男女共同参画推進室長・新事業促進センター参事）

京都府立大学 男女共同参画推進室 主催
女性研究者研究活動支援事業

研究力向上セミナー

大学における研究力向上が求められています。本学でも、地域連携センターを拠点にした産学公連携の取組や平成25年度に採択された女性研究者研究活動支援事業において若手女性研究者を対象とした研究力向上に向けた取組が始まっています。
この度、男女共同参画推進室では、地域連携センターと共催で、女性研究者を主な対象とした研究力向上セミナーを開催します。

**第1回 2015年3月10日（火）
14：30～15：30**
「大学における産学公連携のありかた」
講師：立川 正治氏
（京都産学公連携機構スーパーコーディネータ）

参加無料

第1回は、産学公連携の取組をオール京都で進めている京都府産学公連携機構からスーパーコーディネータの立川正治氏をお招きし、連携活動のキーポイントについて説明をいただきます。

**第2回 2015年3月27日（金）
13：00～14：30**
「研究資金獲得セミナー」※研究資金申請書の公開添削も行います。
講師：塩満 典子氏
（宇宙航空研究開発機構（JAXA）男女共同参画推進室長・新事業促進センター参事）

第2回は、「研究資金獲得」研究者・技術者・ベンチャー起業家への要者である塩満典子氏（宇宙航空研究開発機構（JAXA）男女共同参画推進室長）をお招きし、研究資金獲得のノウハウを学ぶセミナーを開催します。

場所 京都府立大学 稲盛記念会館 106 講義室

対象 京都府立大学教職員・大学院生・学生（男性の参加も可能です）
（京都府立医科大学、京都工芸繊維大学の教職員、学生も参加できます）

申込 男女共同参画推進室ホームページ。またはメールによる申し込み。
当日参加も可能ですが、できるだけ事前の申し込みをお願いします。

主催 男女共同参画推進室・共催 地域連携センター 文部科学省 女性研究支援活動支援事業（一環型）



2-2 女性メンター制度

- ・ メンターへの依頼

常勤の女性教員(23名)に依頼状を送付し、必要に応じて訪問した結果、17名から承諾を得た。

メンター登録者：計26名(男女共同参画推進委員会委員9名、常勤女性教員17名)

- ・ 第1回メンター勉強会「大学におけるメンタリング～神戸大学の経験から学ぶ～」

日時：平成26年5月29日(木)14:30～16:00

講師：朴木 佳緒留氏(神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授
学長補佐(男女共同参画担当))

参加者：10名(教員5名、職員5名)

- ・ 第2回メンター勉強会

「メンタリングの基礎～対人援助の技法を学ぶワークショップ～」

日時：8月7日(木)14:30～16:00

講師：中村 佐織氏(京都府立大学 公共政策学部福祉社会学科教授)

参加者：18名(教員12名、職員6名)

- ・ メンター制度の広報

10月1日から開設するメンター制度のチラシを作成し、学内に掲示すると共に、教員を通じて大学院生や若手研究者に広報を行った。

- ・ メンター相談件数

件数：4件(女性)

相談内容：進路選択の悩み、人間関係等

2-3 キャリアパスアドバイス、カウンセリング

学生保健研修会「府立大学の学生を取り巻く状況とその対応について」参加(3/6)

2-4 女性研究者ネットワークの形成

サロン、セミナー、勉強会等を開催し、学部・研究科を超えた情報交換を図った。

文部科学省 平成25～27年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」
若手研究者育成プロジェクト

**「メンター制度」
が始まります。**

H26.10/11
START!

メンター制度

メンター制度とは、女性の若手研究者や大学院生が抱える、研究生活やキャリア形成上の悩みについて、経験豊かな先輩研究者(メンター)から相談や助言を受けることができるサポートシステムです。
是非、ご利用ください。

対象者

- ・ 本学に在籍する女性の大学院生・学術研究員
- ・ 本学に在職する女性研究者
- ※男性で本制度の利用をご希望の場合は、ご相談ください

相談内容の例

研究の進め方
「国際学会に参加したいけれど何から始めたらいいだろう。」
研究者としてのキャリア形成
「大学卒業後のキャリア選択はどうしよう...」
外郎資金獲得方法
「研究費の獲得がうまくいかない。」
ライフイベントと研究の両立について
「出産していたより、子育てと研究の両立が難しい」「介護をすることになったが、初めてのことで戸惑っている。経験者に相談したい。」

利用の流れ

- ① 電話またはメールで男女共同参画推進室へお申し込みをお願いします。
<申し込み先 Tel: 075-703-5143 Mail: danjo@kpu.ac.jp>
- ② 希望の相談内容を踏まえ、男女共同参画推進室がメンター(本学の教員)を紹介し
ます。
- ③ 日程等の調整は、メンターと相談希望者(メンティ)が直接行い、メンターの研
究室でメンタリング(相談)を実施してください。
- ④ 終了後、利用報告書を推進室までご提出ください。

- メンタリングは原則3回までです。
- 相談内容によっては、学内外の適切な相談窓口を
ご案内する場合があります。
- 秘密は厳守されます。

申し込み・お問い合わせ先： 京都府立大学 男女共同参画推進室
☎075-703-5143 E-mail: danjo@kpu.ac.jp URL: http://kpu-sankaku.jp/

2-5 裾野拡大・次世代育成

・大学院生ニーズ調査の実施

対象者：本学博士前期課程・博士後期課程在籍者 309 名

締切：平成 26 年 6 月 6 日(金)

回答者：125 名（回答率 40.0%）

調査方法：指導教員から大学院生に配布し、大学事務局及び男女共同参画推進室に回収箱を設置して回収

調査項目：巻末資料の通り

2-6 オープンキャンパストークセッション「女性のキャリアデザイン」（補助対象事業外）

「文系女性のキャリアデザイン～公務員を目指す高校生へ～」

日時：7 月 19 日（土）14:40～15:30

講師：奥谷 三穂氏(京都府文化環境部環境・エネルギー課理事 エネルギー政策課長事務取扱)

参加者：24 名

「研究者を目指す・大学院で学ぶ」

日時：7/20(日) ①10:00～10:50、②14:40～15:30

講師：稲葉 理美さん(生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 生命物理化学研究室
博士後期課程 2 年)

佐生 愛さん (生命環境科学研究科 応用生命科学専攻遺伝子工学研究室
博士後期課程 2 年)

参加者：① 28 名、②6 名

感想：

■7 月 19 日（土）（回答数：8）

1. 参加されたきっかけを教えてください。(複数)

	人数	割合
①テーマに興味を持った	5	62%
②スピーカーに興味を持った	1	12%
③チラシ・ホームページ	1	12%
④その他	1	12%

	人数	割合
①高校 1 年生	0	0%
②高校 2 年生	5	62%
③高校 3 年生	2	25%
④保護者	1	12%
⑤その他	0	0%

2. あなたの属性について教えてください。

3. 現在のお住まいはどちらですか。

	人数	割合
①京都市内	3	37%
②京都府内	2	25%
③関西圏	1	12%
④首都圏	0	0%
⑤関西圏・首都圏以外	2	25%
⑥海外	0	0%

4. 本日のトークセッションは今後の進路選択に役立つと思いますか。

	人数	割合
①大変役に立つ	3	37%
②まあまあ役に立つ	5	62%
③あまり役に立たない	0	0%
④役に立たない	0	0%

■7月20日（日）（回答数：19）

1. 参加されたきっかけを教えてください。（複数）

	人数	割合
①テーマに興味を持った	9	47%
②スピーカーに興味を持った	0	0%
③チラシ・ホームページ	7	36%
④その他	3	15%

2. あなたの属性について教えてください。

	人数	割合
①高校1年生	0	0%
②高校2年生	6	31%
③高校3年生	8	42%
④保護者	5	26%
⑤その他	0	0%

3. 現在のお住まいはどちらですか。

	人数	割合
①京都市内	3	15%
②京都府内	2	10%
③関西圏	9	47%
④首都圏	0	0%
⑤関西圏・首都圏以外	5	26%
⑥海外	0	0%

4. 本日のトークセッションは今後の進路選択に役立つと思いますか。

	人数	割合
①大変役に立つ	10	52%
②まあまあ役に立つ	9	47%
③あまり役に立たない	0	0%
④役に立たない	0	0%

5. 前問で「役に立つ」と回答した方にお聞きします。
どんな話が今後の進路選択に役立つと感じましたか。

- ・ 実際の現在の学生生活が伺えました。
- ・ 自分の好きなことを勉強できる所を選ぶ。
- ・ 「何故」をとことん追求！！ Ph.D… Doctor of Philosophy
- ・ 研究室に入って、具体的に何をしているのかという話。
- ・ 大学を卒業したら就職しようと思っていたが、研究をするのも楽しそうだし興味を持つことができました。違う大学とも交流できるのがいいと思いました。
- ・ どんな研究をしているのがよく分かってよかったです。
- ・ 大学卒業してからも自分の興味を持ったことについて追及できるということ。
- ・ 大学院生活についての話。
- ・ 研究がどのような感じで行われているのか知れてよかったし、どのような大学生活を送られているのか知れてよかったです。
- ・ 研究室の様子がよくわかり、大学で研究するのもいいなあと思いました。
- ・ 研究者になるには相当な覚悟がいるんだなと思いました。
- ・ 研究内容をきいて興味がわいた。
- ・ 途中から参加しましたので分からない事が多かったのですが、同じ女性を持つ親として女性の活躍は嬉しいものです。
- ・ 研究しようと思った理由
- ・ 一日のスケジュールや実験・研究の詳しい説明

6. 本日のトークセッションに関するご意見、ご感想等をご自由にお書きください。

- ・ とことん追求することができる環境であることが羨ましいです。自分の子供にもそのような環境を与えられたらいいのですが
- ・ おもしろかったです。女性の方が自分の好きなことを一生懸命研究して結果を出されていることがすごいと思いました。高校の先生も研究の面白さを語ってくださったので、今日のこの機会により研究の楽しさがわかりました。
- ・ 大学院生活が研究だけでなく学会で発表したり国際的な交流をしたりするのは大変だと思いました。今は環境の学部を希望していなかったけど、この話を聞いて興味が持てます。
- ・ 研究室のイメージは自分の思っていたのと全然違うことが知れたのでよかった。
- ・ 研究面白そうだなあと思っていて、今日ここで話を聞いて更に興味がわきました。
- ・ たまたま案内をしていただいたのですが、研究をする方の気持ちが少しわかりました。再度、親子で考えてみます。
- ・ 説明がとてもわかりやすく、研究について興味が持てました。
- ・ 大学院生の生の声がきける機会は滅多にないので良かったです。

- ・ 保護者ですが、私も府大の卒業生です。(文系でしたが) さすが理系女子はキャリア志向、実現を目指して頑張っている方が多いですね。感心しました。
- ・ 大変、参考になりました。



女性のキャリアデザイン ～先輩とのトークセッション～

「女性のキャリアデザイン」をテーマに、京都府職員で元京都府立大学教員の経験を持つ奥谷さん、生命環境科学研究科の大学院生である稲葉さん、佐生さんにお話し頂くトークセッションを開催します。
この機会に、キャリアのこと、大学での研究生活のことについて聞いてみませんか??
みなさまのご参加をお待ちしております!!

・7/19 sat

14:40～15:30

@ 合同講義棟3F 第4講義室

「文系女性のキャリアデザイン
～公務員を目指す高校生へ～」

スピーカー:

✿奥谷 三穂さん

(京都府文化環境部環境・エネルギー局理事
エネルギー政策課長事務取扱、
元京都府立大学公共政策学部准教授
(2010年度～2011年度))



・7/20 sun

①10:00～10:50

@ 6号館2F 61教室

②14:40～15:30

@ 合同講義棟3F 第4講義室

「研究者を目指す・大学院で学ぶ」

スピーカー:

※1回目、2回目は同じ内容です。

✿稲葉 理美さん

(生命環境科学研究科 博士後期課程2年
応用生命科学専攻 生命物理化学研究室
研究テーマ:蛋白質の動的構造と機能との相関解明)

✿佐生 愛さん

(生命環境科学研究科 博士後期課程2年
応用生命科学専攻 遺伝子工学研究室
研究テーマ:イネ種子貯蔵タンパク質オルガネラ
protein body type I (PB-I)を経口ワクチン用キャリアーと
して利用するための研究)



★対象者:男女問わず、保護者も歓迎!

お待ちしております!!

主催: 京都府立大学 男女共同参画推進室(1号館 3階 1310号室)
☎ 075-703-5143 Mail: danjo@kpu.ac.jp Web: www.kpu-sankaku.jp

3. 意識啓発・女性研究者の採用人数及び上位職女性研究者の増加に向けた取組

総 括

小沢修司・副学長

男女共同参画推進室長

公共政策学部 教授

(意識啓発・女性研究者比率向上プロジェクトリーダー)

意識啓発・女性研究者比率向上プロジェクトについては、①意識啓発、②情報発信、③女性研究者比率向上を、3つの柱に立てて取り組んだ。

まず意識啓発については、学内外の組織等と連携しながら各種セミナー、講演会や研修会の開催など多彩な取り組みを進めてきた。学生対象としては、新入生に対してのガイダンスや、在校生に対するキャリアガイダンスやキャリア入門講座の中で、男女共同参画推進室の取り組みを紹介したほか、教養教育の共同化科目「現代社会とジェンダー」の中で京都工芸繊維大学、京都府立医科大学の男女共同参画推進センターに働きかけて3大学における男女共同参画・女性研究者の現状ならびに取り組むを受講生に伝えた。

この他、ワーク・ライフ・バランスセミナー「これからの時代の働き方を語ろう！－『イクメン』男性本音トークー」を開催しトークセッションを実施したこと、さらには大学祭（学園祭）企画として同窓会と共催して「私のワクワク仕事術！－女性が社会で働きということ」を開催し多数の同窓生の参加を得た。

次いで情報発信については、ウェブサイトで推進室のイベントの他、女性研究者の公募など求人情報、各種助成金情報など有益な情報の提供を行うようにしている。この他、リーフレットの作成やニュースレターの発行（3回）など広報活動を展開している。

さて、女性研究者比率向上については、各学部・研究科で人事を進めるにあたって、「本学は男女共同参画を推進していること」を募集要項に記入することで合意を得ており、今年度中に行われた採用人事（年度途中での採用と27年4月1日採用予定）では8名の新規採用教員のうち半数の4名が女性教員となった。来年度は、管理職セミナーを複数回開催するほか、女性研究者を増やすことが大学の研究水準や活力を向上させることに繋がることについて各学部・研究科教員への働きかけを工夫し女性研究者の比率向上の意義の浸透をはかっていきたい。

以上、今年度の意識啓発・女性研究者比率向上プロジェクトを振り返ってみると、かなり盛りだくさんで意欲的な取組を続けてきたといえよう。ただ、女性研究者研究活動支援事業は具体的な数字、成果が求められる。このことを肝に銘じて、最終年度のプロジェクト展開を行っていきたい。

3-1 ワーク・ライフ・バランスセミナーの開催

「これからの時代の働き方を語ろう！～「イクメン」男性本音トーク～

日時： 9月4日（木）10:00～12:00

講師：東 浩司氏（NPO 法人ファザーリングジャパン理事・株式会社ソラーレ代表）

体験談：朝田 佳尚（公共政策学部福祉社会学科講師・男女共同参画推進委員会委員）

鈴木 健二（生命環境科学研究科環境デザイン学科准教授）

パネリスト：和田優人（生命環境学部環境デザイン学科3回生）

長谷川里奈（男女共同参画推進室特別研究補助員）

参加者：26名（学部生7名、教員11名、職員8名）

キーノートスピーチ「イクメン・イクボスが職場を変える」では、NPO 法人ファザーリングジャパン理事の東浩司氏を講師にお迎えしました。初めにご自身のキャリアと育児のお話、「笑っている父親を増やす」ことをミッションとした FJ の活動紹介の後、育児は「働き方」を見直すチャンスであること、ワーク・ライフ・バランスでのシナジー（相乗効果）がビジネススキルの向上につながることも、育児を通じてのメリットとやりがいについて述べられました。

続いて、体験談「子どもが産まれた、さて、どう働く？」では、公共政策学部福祉社会学科の朝田佳尚講師、生命環境科学研究科環境デザイン学科の鈴木健二准教授より、それぞれ育児と働き方のリアルな現状について紹介がありました。時間管理の方法から、男女共同参画が内包するリスクの指摘、職場での上司の理解の重要性、仕事の工夫の紹介など、多角的な視点から論じられました。

最後に、本音トーク「これからの生き方・働き方 多世代本音トーク」では、東氏、朝田講師、鈴木准教授に加え、若者代表として本学生命環境学部環境デザイン学科3回生の和田優人さん、男女共同参画推進室員の長谷川里奈がパネリストとして参加しました。コーディネーター、コメンテーターは小沢修司 副学長・男女共同参画室長、野口祐子 男女共同参画推進室副室長が務めました。30分と限られた時間ではありましたが、「正規・非正規の雇用システムに問題があるのではないかな？」という若者からの率直な感想を含めて、男女共同参画を巡る全体的な議論がなされました。



アンケート結果 ※アンケート回答者：13名

(1) 性別

①男性	②女性	無回答
6	7	0

(2) 年代

① 10代	② 20代	③ 30代	④ 40代	⑤ 50代	⑥ 60代	⑦ その他	無回答
2	5	2	3	1	0	0	0

(3) ご所属

本学

①教員	②職員	③学部生	④博士前期課程	⑤博士後期課程	⑥その他
2	4	4	0	0	0

3. キーノートスピーチ「イクメン・イクボスが職場を変える」(東浩司氏)の内容はいかがでしたか。

①非常に有意義だった	②有意義だった	③ややもの足りない	④もの足りない	無回答
5	5	2	0	0

(理由)

- ・ ワーク・ライフシナジーで豊かに子育てしたいと考えると「お金」と「時間」両方を得たいと考えています。学生時代は「時間はあるけどお金はない」、働き始めると「お金はそこそこできるけど時間が取れない」、なかなか両方得ることが難しい。就労規則の中で、働き方、複業というものを見直し、まずは「たのしく生きる」から初めています。前提のイクボスのマインドセットがイクメンのマインドセットにも関わり、ムーブメントが始まると感じます。
- ・ 男性が育児を行う上での実際の活動や対応が聞けて参考になった。
- ・ 父親学校の存在をこのスピーチで初めて認識しました。まだまだ自発的に育児に専念するという父親の姿勢がいわゆる「イクメン」像になっていると思うので、より会社やより社会や地域、そして国全体で寄り添ってイクメンを普遍化させていくことが大事なのかなと感じました。
- ・ 男性の子育てについて、広めている活動は貴重だと思いましたが、なんだかふわふわしているように感じました。男性と女性で感じ方が違うのかもしれない。
- ・ 「イクメン」という言葉がもてはやされることに違和感を持っていたので、「イクメンを死語にする」という言葉にはすごく感銘を受けました。子どもが産まれたから働き方を変えよう、という考えは、自分の周囲ではあまり聞くことができなかったため、それを実践されているというお話はとても勉強になります。こう思うことがふつうになれば、男性の育休取得やフレックスタイムの勤務がやりやすくなるのだろうか、ということを考えました。
- ・ イクメンという言葉がなくすのが FJ の使命という言葉に共感しました。一方、長時間労働や職場の意識など、労働法、行政の施策も考えるべきだと思いました。同内容で、90 分くらいお話しいただき良かった。(やや早口)
- ・ イクメンを育てることも大切であるが、支援をしていくことも大切である。それはイクボスの育成、教育が必要であるかと思う。どのようなプロジェクトをされているのか、聞きたかった。また、イクジイが地域貢献を見据えての講座参加を聞いて興味深かった。このプロジェクトについても知りたかった。

4. 体験談「子どもが産まれた、さて、どう働く？」の内容はいかがでしたか。

①非常に有意義だった	②有意義だった	③ややもの足りない	④もの足りない	無回答
9	1	0	0	2

(理由)

- ・ とてもリアルな話でよかったです！
- ・ 社会全体の制度を抜本的に変える、変わることには、あまり期待できない中で、やはり血縁関係者のネットワークが今のところ頼みの綱であるのが現状だと感じました。ただ、うまくタイムマネジメントをし、自己管理能力を駆使すれば、できる限りのことはできるんだと知りました。
- ・ 育児をする側の立場での苦労や育児をしていて良かったこと、社会の目指す男女共同参画の問題点が聞けたのが良かった。

- ・ 朝田先生の「男女共同参画に対する問題点」のお話に共感できたから。鈴木先生の育児の方法が参考になる所が多く、自分の将来にも役立ちそうだったから。
- ・ 朝田先生の報告、たいへん感動した。その通りだ。身近なネットワーク、その通り。そしてもう一歩、何か力になるようなしくみを考えたいものです。鈴木先生の報告も興味深いものだった。工夫の方法も参考になった。
- ・ 上のスピーチと共に、父親の生の声を聞く機会が学生の私にはまだあまり無いので、新鮮さと現実味のある体験談が聴けて良かったです。
- ・ 朝田先生、鈴木先生の話は大変なところも含めてとてもリアルで良かった。「男女共同参画」のリスクについての話は、モヤモヤしていた心がすっきりしました。大変な部分をもっとしっかり出していった方がいいと思います。
- ・ 働きながら育児を行うことについての、難しさや苦労の面を聞くことができて良かったです。ただ男性に家事育児の負担を被らせるだけに終わってしまっはいけないと思いました。
- ・ 朝田先生：イクメン（あるいは現社会での子育て）の意味する「お前らもっと頑張れや」的な政策について、深く切り込んでいて共感が持てました。鈴木先生：実家のヘルプの重要性を認識した。それが得られない家族が大半と思われる。その社会的サポートをどうすべきなのかを考えた。
- ・ 共同参画のリスク、ということは今までに考えたことがなかったので、もや一としていたすっきりしない部分が見えたように思いました。先生方も積極的に育児されている様子にとっても好感が持てました。
- ・ 共働き家庭や、専業主婦家庭における共働や育児参加について、知れてよかった。時間管理が重要であると感じ、勉強になった。
- ・ 今後自分が仕事と育児を両立する際の参考になる話が聴けた。（仕事術など）

5. 本音トーク（パネルディスカッション）の内容はいかがでしたか。

①非常に有意義だった	②有意義だった	③ややもの足りない	④もの足りない	無回答
3	4	1	0	4

（理由）

- ・ 社会病理学の負のアプローチから捉えてみるのも「男女共同参画」を推進することにとって重要だと認識しました。鈴木准教授には強力なイクボスがついておられて、このような働き方を許容してくれる日本社会を築くには、我々の世代が実践し、許容からそれが当たり前になる時代へと切りひらいていきたいですね。私も実践します。
- ・ スピーチや体験談の他にも話が聞けたことやスピーチ、体験談の目的のようなものが知れたことが良かった。
- ・ もう少し時間が長いと良かった。
- ・ もっと時間を多く取って、たくさん話していただきたいと思いました。
- ・ 東先生、朝田先生、鈴木先生の話がかみ合って、全体の本当の男女共同参画について議論ができていると思った。1時間ぐらい時間があると、さらに良かったです。
- ・ バランスの取れたお話が聴けて有意義でした。

6. 本日のセミナーに関する感想を自由にお書きください。

- ・ 府大のおかれている状況等が良く分かった。
- ・ 途中参加になってしまい、あまり話は聞けませんでした。短い中にも色々気付くことができました。ありがとうございました。「本音トーク」の部分はもう少し長くても良いのではないのでしょうか。
- ・ おもしろかったです。
- ・ 今現在子育てをしている身として、ものすごくためになる話を聞くことが出来たため、参加して良かったと思いました。夫に対して「全然手伝ってくれない」と怒るのではなく、どうしたら積極的に育児したいと思ってもらえるか考えて、一緒に笑顔でやっていけるよう心掛けることを忘れないようにしたいと思いました。自分が家事ハラしてしまっている心当たりがあるので、気を付けたいと思いました。
- ・ 府大の取り組みの本気度が伝わってくる、良いセミナーでした。本学でも追随したいと考えます。
- ・ 充実した企画で楽しめました。

男女共同参画推進室主催

ワーク・ライフ・バランスセミナー

対象：本学教職員、学生、院生

2014.9.4(木) 10:00-12:00

@ 合同講義棟 第5講義室

これからの時代の働き方を語ろう！ ～「イクメン」男性本音トーク～

男女共同参画推進室では、大学構成員のワーク・ライフ・バランス支援に取り組んでいます。今回、NPO法人ファザーリング・ジャパン理事のあずまこうじ氏より、ワーク・ライフ・バランスの実践と効果についてお話し頂くとともに、子育て中の男性教員による体験談、さらに学生を交えた多世代間でのトークから、研究・仕事と生活のバランスについて考えます。「男性研究者はどのように子育てに取り組んでいるの?」「ライフイベントと仕事、両立のコツは?」など、この機会に一緒に考えてみませんか?

■ キーノートスピーチ

「イクメン・イクボスが職場を変える」 東 浩司 氏

(NPO法人ファザーリング・ジャパン理事・株式会社ソーラーレ代表・
産業カウンセラー・専修大学非常勤講師・
聖心女子大学就職カウンセラー)



■ 体験談 「子どもが産まれた、さて、どう働く?」

朝田 佳尚 (公共政策学部福祉社会学科講師・男女共同参画推進委員会委員)

鈴木 健二 (生命環境科学研究科環境デザイン学科准教授)

■ 本音トーク 「これからの生き方・働き方 多世代本音トーク」

東浩司氏、朝田佳尚、鈴木健二

和田 優人 (生命環境学部 環境デザイン学科3年生)

長谷川 里奈 (男女共同参画推進室 特別研究補助員)

※ NPO法人ファザーリング・ジャパン

「fathering=父親であることを楽しもう」という意識を持った育児世代のパパたちを支援するため、2006年に設立。企業、自治体、大学等で年間300回を超える講演会やセミナー、イベントを実施。父親講座、男性の育児休暇取得促進、父子家庭支援、政策提言などさまざまな事業を展開するソーシャル・ビジネス・プロジェクト。

申込み・問合せ：京都府立大学 男女共同参画推進室 (担当：長谷川・鈴木)

TEL 075-703-5143 E-mail danjo@kpu.ac.jp

* 事前お申し込みは不要です。直接会場までお越しください。

3-2 流木祭 講演会「私のワクワク仕事術！ ～女性が社会で働くということ～」

日時：2014年11月15日（土）14：30 ～ 16：00

場所：合同講義棟3階 第3講義室

講師：岡田寛子氏（京都銀行公務部長 京都府立大学文学部文学科西洋文学専攻 1989年卒）

参加者：173名

流木祭（流木祭）において、同窓会との連携が事業の柱である本女性研究者研究活動支援事業への理解を深めるために、京都銀行で女性として初の部長となった卒業生の岡田寛子さんをお招きして、講演会を開催しました。

冒頭、築山崇学長の挨拶に続き、男女共同参画推進室コーディネーターの鈴木より、男女共同参画推進室の取組み紹介を行ない、続いて、岡田氏より入行後の歩みについて講演がありました。



「1985年、男女雇用機会均等法が成立して3年後に入行しましたが、当時は、ロールモデルとなる女性行員もおらず、仕事を持って一生、働くことへの意識はなかったのですが、28歳の時に、支店行員の研修を企画運営するなかで手応えを感じ、仕事のやりがい芽生え、支店長代理、出張所所長とキャリアアップをしてきました。

仕事をする上で心がけているのは「ハプスタンス・アプローチ」という考え方。計画された偶発性と訳され、「個人のキャリアのほとんどは予想しない偶発的なことによって決定される」とし、その偶然を計画的に設計して自分のキャリアを良いものにしていこう、というポジティブな考え方です。この考え方で、難局を乗り越えてきました。最後に女性へのメッセージとして、「私の時代は、キャリアの中に“部長”という未来が入り込むことがなかった、希望を持てなかった時代でした。ただ、“言ってくれはるんだから、やってみよう”という心持で、理想と現実のギャップを埋めることをしてきた結果、今があります。女性登用の流れに乗りながら、流されてきたともいえますが、皆さんもせっかくのチャンスですから流れに乗ってみましょう！」との言葉で締めくくられました。

本学文学部欧米言語文化学科4回生の田中さん、中尾さんとの対談では、「就職時に進路への不安はありましたか」「キャリアアップを重ねてこられた中で、ご自身の強みは何だと感じますか」等の質問が出され、丁寧にお答え頂きました。

閉会の挨拶として、北川壽一同窓会長から、「非常にフレッシュな印象と、将来に無限の可能性をお持ちであると感じました。岡田さんには益々ご活躍を頂き、多くの女性のロールモデルになって頂きたいと思います。」と挨拶がありました。

京都府立大学 男女共同参画推進室 主催
流木祭 * 講演会

Guest
岡田 寛子 さん *Hiroko Okada*
京都市銀行 公務部長

大阪府河内市出身。京都府立大学文学部文学科西洋文学専攻卒。1989年、京都銀行に入行。支店勤務や府庁出張所長、三条駅前支店長を経て、2013年公務部長となる。休日には「平日はさける時間が少ない」家事にも時間を割く。



私のワクワク仕事術！
女性が社会で働くということ

* <http://kpu-jankaku.jp/> *

本学には京都府における女子高等教育の推進にあたって先駆的な役割を果たし、女性の社会進出に大きく貢献してきた歴史があります。二〇一三年には、男女共同参画推進室を開設し、大学の環境整備に取り組みとともに、地域社会での女性の活躍推進の取り組みも進めています。

この度、京都銀行で女性として初の部長となった本学同窓生の岡田寛子さんをお招きして、「女性が社会で働くということ」について語っていただきます。

Program

- 開会の挨拶 / 流木祭（京都府立大学）
- 男女共同参画推進室の取り組み紹介
- 講演 / 岡田寛子さん（京都銀行 公務部長）
- 参加者同士の交流
- 閉会の挨拶 / 山田 一（京都府立大学 総務部長）

2014.11.15（土）14:30-16:00
場所 | 京都府立大学 合同講義棟3階 第3講義室

□ 対 象：同窓会・後援会・校友会、教職員、学生
□ 申 込：参加費無料（事前申込不要）
□ 問 合 せ：京都府立大学男女共同参画推進室
TEL 075-703-5143 E-mail danjo@kpu.ac.jp
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5 1号館1310号室

□ 主 催：京都府立大学 男女共同参画推進室
□ 共 催：京都府立大学 同窓会・後援会・校友会

※講演会終了後、講師や参加者の交流の場として、完成したばかりの
稲盛記念会館レストランで同窓会主催のレセプションを開催します。
（参加費無料／事前申込不要／どなたでもご参加いただけます）

託児
就学前のお子様
先着5名（無料）
要申込
（11月5日締切）



文部科学省科学技術振興費補助事業「女性研究等研究活動支援事業」

3-3 ホームページによる情報発信

男女共同参画推進室の取組を広く発信するため、ホームページによる情報発信を行った。

3-4 男女共同参画推進室 リーフレットの改訂

3-5 男女共同参画推進室 ニュースレターの発行

ニュースレター第2号～第4号を発行した。

3-6 情報収集・渉外・広報活動

- ・ **キャリアガイダンスでの広報**

4月に行われる全新入生を対象としたガイダンス及び在校生を対象としたキャリアガイダンス・キャリア入門講座において、男女共同参画推進室の取組紹介を行った（計7回）。

- ・ **大学教養教育共同化授業「現代社会とジェンダー」での取組紹介（補助対象事業外）**

三大学（京都府立医科大学、京都工芸繊維大学、本学）教養教育共同化授業「現代社会とジェンダー」の1コマを本事業の紹介に充て、各大学の男女共同参画推進センターの責任者、担当者を招き、三大学の取組紹介と共有を行い、地域全体で女性研究者支援を取り組む必要性について学生と共に議論を深めた。

- ・ **「四大学連携ヘルスサイエンスフォーラム」で四大学の取組紹介**

本学で行われた四大学連携（京都府立医科大学、京都工芸繊維大学、京都薬科大学、本学）ヘルスサイエンスフォーラムにおいて、四大学の女性研究者支援のパネル展示を行い、前室長が来場者との意見交換を図った。

- ・ **人権委員会研修会「セクシャルマイノリティと人権」共催（補助対象事業外）**

人権委員会が9月11日に主催した講演会「セクシャルマイノリティと人権」への企画協力（人選等）を行い、教職員計56名の参加を得た。同様の内容で3月5日にも開催した。

- ・ **京都ノルウェーゼミ20周年記念府民公開特別講義 広報・運営協力（補助対象事業外）**

本学教員が主宰した京都ノルウェーゼミ特別講義「ノルウェーの男女平等とそれを支える社会福祉制度」の広報、運営協力を行い、男女共同参画推進室の広報を行った。



参加・訪問

女性研究者支援事業の情報収集や学内外の関係機関への広報周知、アウトリーチを行った。

- ・ 京都産業大学来訪 (5/19)
- ・ 京都府男女共同参画課来訪 (6/4)
- ・ JST会計監査(6/26)
- ・ 男女共同参画推進フォーラム(8/30)参加 国立女性教育会館
- ・ 兵庫県立大学女性研究者支援室来訪 (9/4)
- ・ 兵庫県立大学女性研究者支援室「研究資金獲得セミナー」参加(9/18)
- ・ 滋賀県立大学来訪(10/2)
- ・ 京都市嘉楽中学校来訪(10/16)
- ・ JST女性研究者研究支援事業2014フォーラム(11/26)
「女性研究者支援とダイバーシティ・マネジメント」一橋講堂(東京)
- ・ 大学等における男女共同参画推進セミナー (12/4-5) 国立女性教育会館 (埼玉)
- ・ 本学キャリア入門講座「男女共同参画」講義参加 (1/9)
- ・ 京都府立医科大学男女共同参画推進センター「子育て応援府民公開フォーラム」(2/8)
- ・ 京都工芸繊維大学男女共同参画推進センター総括シンポジウム参加 (3/3)

3-7 女性研究者の採用人数及び上位職女性研究者の増加に向けた取組

平成 25 年度から、教員の公募要領に、選考方針として「男女共同参画を推進していること」を明記することになった。比率は上昇傾向にある。平成 25 年度に公募を行った 2 名のうち、女性 1 名を採用した。平成 27 年度採用者で、平成 26 年度に公募を行った 5 名のうち、女性 3 名を採用予定である。

女性教員の比率

※学長を除く

年度	基準日	女性教員数	全教員数 (現員)	女性教員 比率
2012 年度 (平成 24 年度)	5. 1	24	152	15. 7%
2013 年度 (平成 25 年度)	4. 1	26	156	16. 7%
	2. 27	26	155	16. 8%
	3. 31	25	153	16. 3%
2014 年度 (平成 26 年度)	4. 1	25	152	16. 4%
	9. 30	25	150	16. 7%
	10. 1	25	151	16. 6%
	11. 1	26	153	17. 0%
	11. 30	26	151	17. 2%
2015 年度 (平成 27 年度)	4. 1 (見込)	29	148	19. 6%

IV 資料

ニュースレター 第2号～第4号

卒業生就業状況調査 調査結果概要

大学院生の現状とニーズ調査 調査票

女性研究者・学生に関わる基礎データ

発見の毎日 ～研究と子育てと～

文学部准教授 岸本 恵実

私は日本語史、なかでも戦国時代から江戸時代にかけて、寺子屋・私塾・日本官制の形成に作成された諸書や文法などをとらえ、当時の日本語を明らかにする研究を主眼とする。所属する本・中国文学科では文献を「写し」に読み解くことが研究の基本となっており、私の場合はなかから近代の日本語、特にほろもろの方言やラテン語で書かれた文庫が対象です。その上にはなほ読み解きの心から、あるいは学生たちの議論の中から、さらに面白・発見がもたらされる知識の領域まで見て、なかにも大いに関心をもちまわります。さらに私個人として見ると、本と書札、その他の紙書も含むことで段取りを考え、決めるのが日常の中心になっているというよりもむしろ適度でありまざるを得ないかと思いますが、徐々にではありますが、今まではできなかったようなことを得たのですが、徐々にではありますが、今私で大学の重荷を下にして10分の日時間についているというくらい、公私の境のいびつな程度の子供を、朝日と時間配分を意識しながら進めているという気持ちがあります。

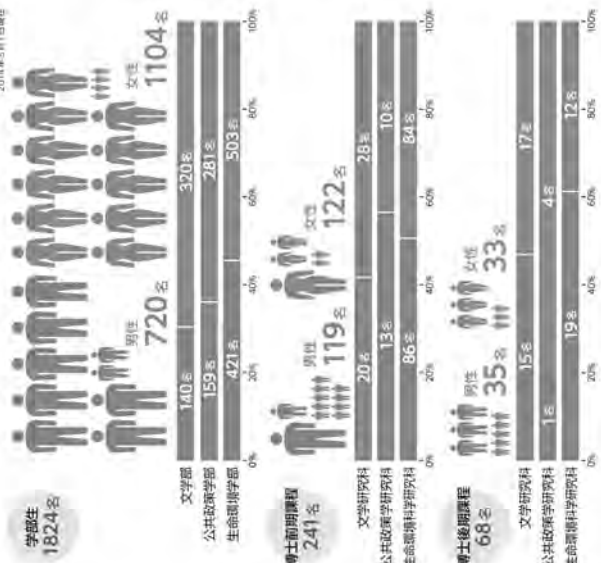
このように子どもがいてくれることで、頭の切り替えがしやすくなり、さらに、子どもがいてくれることで、子どもが社会と私の大

数字で見る！
府大の男女共同参画

／＼数字で見る／

学生・大学院生の
男女比率

2014年5月1日現在



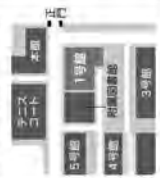
記後集編

推進室が開設され8ヶ月が経ちました。4月から若手スタッフが4名増え、3名の常勤職員体制となりましました。今年度の女性研究者支援事業は、相談窓口の開設やメンター制度の創設、スキルアップセミナーなど、大学・研究生を対象とした事業を中心に進めています。研究の合間に意識を転換したくなつたとき、推進室を利用して下さい。必ずしもネットが思つてはなりません。

編集・発行

京都府立大学
男女共同参画推進室

〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1-5
(1号館3階)
TEL: 075-703-5143
E-mail: danjo@kpu.ac.jp
HP: www.kpu-sankaku.jp

[illegible]

自伝小説家と反骨の毎日でありますが、女性も働きやすい環境が社会的に整ったことで、周知にまでなされた多くの女性作家がこれに答えて下さることができました。さらに、昨年度からこの大学独自の支援を受けられるようになりましたが、これまでできてきた意思に継承するだけでなく、どのような形で選んで若い研究者の人たちにつなぐべきか、これからの課題の一つと考えています。

きしもと・えみ

2002年3月 京都大学博士(文学) / 2000年～2006年 大阪
外国語大学 日本学・日本文化教育センター(旧留学センター)助教授
自センター助手、講師、准教授 / 2007年～2010年 同職基
礎センター 助教授 / 2010年現在、同職

京都府立大学男女共同参画推進基本理念



1990年に施行された男女共同参画社会基本法は、男女が互いにその人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現が、21世紀のわが国の最重要課題と位置づけています。

本学は、京都府立大学の理念に明記しているように、京都府における知の拠点として、広く人文・社会・自然の諸分野にわたる學理を探究し、教育することによって、地域社会と国際社会の持続可能な発展に貢献できる人材を育成することと、京都の地に根ざした魅力的で個性ある大学として発展することとをめざしています。また学園の自由な発展をめざすため、構成員ひとりひとりの人権を尊重し、自律的・自発的な探究を保障することを願っています。

本学は、教育研究の場でさらなる成果をあげ、学生の発展に貢献するために、学生、教職員が、お互いの多様性を認め合い、協働し、学修、教育・研究、就業、家庭生活の場で、権利と利益の機会が均等に調和している環境の実現を推進します。

ここに、男女共同参画社会の実現をめざすことを宣言し、取組みの方向性を示すことを目的として、本学における男女共同参画推進の基本方針を示します。

基本方針

1. 男女共同参画の視点に立った教育・研究環境および就業体制の確立
2. 教職・研究および就業と家庭生活との両立を図るための支援
3. 男女共同参画に関する啓発活動の推進
4. 大学運営における意思決定への女性の参画の推進
5. 男女共同参画を推進する地域社会や自治体との協働・連携の推進

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業(一般型)

ポーダレスな日常

公共政策学部 准教授 服部 敬子

[illegible]

しかしながら、仕事との両立上、助かっているのは、夫が専業主婦で仕事関係はツーカー、洗剤物をピンと下してお風呂をピカッと、その3として役立てられることです。奥者に聞けば、親室、

まったり・けいこ

専門は発達心理学。

思案をするためのビデオカメラやレコーダー、鉛筆とメモ用紙が部屋中のあちこちに常にならべられています。運動会などの行事ではついでに、年齢・学年による違いや指導が難しい子どもの様子を観察してまい、「あ、うちの子どもだ」ということもある。

そんなこんなで、私にとっての「OPH」は「子どもが目の前にいない時」なのですが、子どもが寝てからその目の視察記録をデータベースに入力した原稿を書いたりする時、本当に「オファ～」と感じるのは、うたた寝したりお茶を本を読んだりできる大学病院で、待ち時間です(月1～2回、待ち時間たっぷり)。

今年度前期は組合の要求の実現して「研究費増額」をいまだ、
高度の冷たいフィードバックワークや中身の改善・自由時間が確保され、
次が実現できることになっていくことに気づくこともあった。(2)
歴史的な意味での生活に関する対ゴワイのこと、有年先輩者の関
連者の元、先生や、山田たけが「おつかいさ、お元気でございっ
す」と用いる声かけがたまにN先生をはじめ、休職やごまのちの
ことを気にしてくださる多くの先生方を元気づけて、励まして、ワー



専門には発達心理学。授子子。院主位上で祐順、京都大学と東京大学という発達心理学から出てく。現在は府立大学と大で勤務、子どもは小学。小三、三歳になりました。ここ数年、小三の四歳で通院中、大きなアスクを同時に愛用しています。

数字で見る！

数字で見る！／

府大の男女共同参画

常勤教員の
男女比率

2011年10月16日

職別	性別	人数	割合
教授	男性	15名	13.6%
	女性	3名	
准教授	男性	8名	18.5%
	女性	4名	
講師	男性	5名	21.7%
	女性	0名	
助教	男性	0名	20.0%
	女性	0名	
合計	男性	28名	17.0%
	女性	7名	
文学部	男性	15名	20.0%
	女性	3名	
公共政策学部	男性	8名	16.6%
	女性	1名	
生産経済学部	男性	34名	15.0%
	女性	5名	
経済学部	男性	57名	15.0%
	女性	9名	
工学部	男性	44名	18.5%
	女性	10名	
理学部	男性	27名	30.0%
	女性	3名	
農学部	男性	27名	16.0%
	女性	5名	
看護学部	男性	8名	10.0%
	女性	2名	
薬学部	男性	0名	0.0%
	女性	0名	
総合科学部	男性	19名	23.0%
	女性	4名	
経済学系	男性	80名	95.0%
	女性	15名	
工学系	男性	127名	153.0%
	女性	26名	

記後集編

11月には学園祭が開催されるイベント「ジョー」が予定されています。男女学生が企画運営でも、本学では教職員も積極的にカフェで授業を担うことは、他校では聞かれないかもしれません。また、交際費や、あるいはセミナー、あるいは学生士のつながりや、視野を広げられるような女性を自覚し、私も勉強させてあげたい、という気持ちから企画運営に関わっています。是非、この機会にお話を伺っていただきたいイベント開催の機会や新進生に聞ける情報は専用LINE IDで公開していますので、ぜひチェックしてみてください。(毎分)

編集・発行
京都府立大学
男女共同参画推進室

〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1-5
(1号館3階)
TEL: 075-703-5143
E-mail: danjo@kpu.ac.jp
HP: www.kpu-sankaku.jp

Vol. 03
2014.11
News letter
第一卷第三期
2014年11月

京都府立大学 男女共同参画推進室 ニュースレター

若手研究者・大学院生のための
メンター制度が始まりました

男女共同参画推進室では、女性研究者研究活動支援事業の一環として、10月よりメンター制度を創設しました。ぜひご活用ください。

メンター制度とは？

研究職としてのキャリアをめざす若手研究者、大学院生のみなさんのために、本学教員が身近な経験者よりきき取り、助言者となつて、手研究、大学院生が自ら考え、気づき、行動することができるよう、結による助言によって支援する制度です。

メンター制度の特徴

研究員としてのキャリアをめざす人が、経営者との交流を通じて、自分の目標を具体的にイメージすることが出来ます。

研究とライフイベント（出産・育児・介護等）の両立のために、経営者から職場環境を知ることが出来ます。

利用対象者(メンティ)



(1) 本学の女性の大学院生、学部研究員
(2) 本学の女性常勤教員
(3) 本学有期雇用教職員就業規則の適用を受ける女性の
特任教員・研究員
(4) その他、男女共同参画推進委員が必要と認める者

附則 第二 希望の割合は二割以上とせよ。

相談者(メンター)



女性労働者のメンター登録者 17名
男女共同参画推進委員会 収 9名
※メンター——妻は、男女共同参画推進型のホームページに掲載
平成26年10月1日現在

第2回メンター勉強会を開催

メンター制度の創設に先立ち、本学の中村佐嗣公井政賢学部長は社会等専攻長を副総に、第2回メンター勉強会「メンタリングの基礎」で人間援助の技法を学ぶワークショップを開催しました。

日程 8月7日(木)14:30～16:00 18名(教員12名 職員6名)

文部科学省科学技術人材育成補助事業 女性研究者活動支援事業(一般型)

お申込み：男女共同参画推進室
☎075-703-5143
✉ danjo@kpu.ac.jp

1 お申込み → 2 メンター紹介 → 3 日程の調整 → 4 メンタリング → 5 報告
 電話またははメールで
 男女共同参画推進
 室へお申し込みをお
 願いします。
 希望の相談内容を
 願います。メンター(本
 希望の相談希望
 者(メンティ)とで重
 メンターと相談希望
 者(メンティ)とで重
 合、日程等の調整を
 行います。
 メンタリング(相談)
 を実施します。
 メンタリング終了後、
 利用報告書を送達
 までご提出ください。

ポジティブアクション



Q 1 なぜ、女性研究者の数を

増やさなければいけないのでしょうか？

2014年の世界経済フォーラム(World Economic Forum)が発表したジェンダー・ギャップ指数(Gender Gap Index: GGI)によると、142か国中、日本は104位であり、経済活動の参加と機会が102位、教育が93位、健康と生存が37位、政治への関与が129位(先進国の中でも、著しく低い水準にあります)。

政府は第4期科学技術基本計画で、平成27年度末までに、自然科学系の女性研究者の採用目標(自然科学系全体としては25%(理工系20%、工学系15%、農学系30%、保健系30%)を達成し、更に30%まで高めることをめざす」としていますが、達成されていません。

Q 2 女性を優遇する取り組みを行うことは、男性への「逆差別」「法律違反」になりませんか？

職場に事実上生じている男女間の格差を是正して、男女の均等な機会・待遇を法的に確保するために、事業主が、女性のみを対象とするまたは女性を有利に取り扱う措置(ポジティブ・アクション等)は、法違反ではありません(男女雇用機会均等法第8条)。

※事実上生じている男女間の格差について、男性労働者と比較して、一定の区分、職種、役職において女性労働者の割合が4割を下回っている場合、格差が存在していると判断されます。

引用：厚生労働省ホームページ「男女雇用機会均等法のあらまし」

Q 3 どうすれば、女性研究者を

増やすことができるのでしょうか？

①育休や介護などライフイベントとの両立ができる制度や環境の整備。
②全学的な意識改革。③女性特定公募制など女性研究者の積極的な採用、登用、数値目標の設定などのポジティブアクション(積極的改善措置)が挙げられます。

男女共同参画学術推進協会が行った「第三次同科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」解析報告書では、[女性研究者採用の数値目標]に対する取組として、

	数値目標がある	数値目標がない	数値目標がある点がある	改善するべき点がある
男性	26.6%	35.7%	21.3%	4.0%
女性	35.9%	30.2%	6.6%	10.1%

となっており、女性のほうが肯定的に取組んでいることが分かります。こうしたことから、意識改革とセットにした、ポジティブアクションの実施が必要であることがわかります。

〔第三次同科学技術系専門職の男女共同参画実態調査〕解析報告書 50P
平成25年8月実施、回答数 16,314件

活動報告
男女共同
参画推進室
短 信

「京都府立大学 卒業生就業状況調査」発行

男女共同参画推進室では、卒業生の就業状況を明らかにし、今後の女性研究者の支援方策や、卒業生との連携の展開を検討する基礎データを得ることを目的に、同窓会の協力を得て、本学としては初めて、卒業生就業状況調査を実施しました(平成25年11月～12月)。

調査では、ライフステージごとの職業キャリアの変化を把握するため、学部卒業後、5年、10年、15年を経過した766名を対象とし、卒業後の進路、現在の仕事、卒業直後の進路から現在の仕事の变化、仕事と家庭を両立して仕事を続けるために必要なこと等をお聞きしました。有効回答数は276名(女性211名、男性65名)、有効回収率は36.0%と、予期を上回る多くの卒業生にご協力いただきました。調査報告書をご入用の方は、男女共同参画推進室までお問い合わせ下さい。

おおいプロジェクト

第1回 ありていミナ

My Life ~ Inscrutable are the ways of Heaven ~
人間万事盛衰が属し

第1回 12月12日(金)13:00 ~ 14:15
第2回 12月12日(金)14:30 ~ 16:00
第3回 12月12日(金)16:30 ~ 18:00
第4回 12月12日(金)18:30 ~ 20:00

第2回 ありていミナ

「英語は読んでも必要なのは素直な心、気合いと時々根性?」
(京都府立大学国際センター「英語力アップ」の支援)

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 16:00
第2回 12月12日(金)16:30 ~ 18:00
第3回 12月12日(金)18:30 ~ 20:00
第4回 12月12日(金)20:30 ~ 22:00

第3回 ありていミナ

「土曜というブラックボックスを放射光で照らす新しい試み
～量子系女性研究者の挑戦～」

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 16:00
第2回 12月12日(金)16:30 ~ 18:00
第3回 12月12日(金)18:30 ~ 20:00
第4回 12月12日(金)20:30 ~ 22:00

第4回 ありていミナ

「日本の聖地 京都の先駆者 聖地巡礼者と共に歩んで」
(京都府立大学国際センター「英語力アップ」の支援)

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 16:00
第2回 12月12日(金)16:30 ~ 18:00
第3回 12月12日(金)18:30 ~ 20:00
第4回 12月12日(金)20:30 ~ 22:00

第5回 ありていミナ

「第1回「男性研究者が、女性研究者と、生活すること」
(京都府立大学国際センター「英語力アップ」の支援)

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 16:00
第2回 12月12日(金)16:30 ~ 18:00
第3回 12月12日(金)18:30 ~ 20:00
第4回 12月12日(金)20:30 ~ 22:00

第2回「ストレスとの上手な付き合い方
～自分のコミュニケーションの癖を知ろう～」

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 15:50
第2回 12月12日(金)16:00 ~ 17:20
第3回 12月12日(金)17:30 ~ 18:50
第4回 12月12日(金)19:00 ~ 20:20

第5回 ありていミナ

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 15:50
第2回 12月12日(金)16:00 ~ 17:20
第3回 12月12日(金)17:30 ~ 18:50
第4回 12月12日(金)19:00 ~ 20:20

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 15:50
第2回 12月12日(金)16:00 ~ 17:20
第3回 12月12日(金)17:30 ~ 18:50
第4回 12月12日(金)19:00 ~ 20:20

第6回 ありていミナ

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 15:50
第2回 12月12日(金)16:00 ~ 17:20
第3回 12月12日(金)17:30 ~ 18:50
第4回 12月12日(金)19:00 ~ 20:20

第7回 ありていミナ

第8回 ありていミナ

意識啓発プロジェクト



流木奈(学芸学部)講演会
「私のワタシ仕事術」
女性が社会で働くということ

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 16:00
第2回 12月12日(金)16:30 ~ 18:00
第3回 12月12日(金)18:30 ~ 20:00
第4回 12月12日(金)20:30 ~ 22:00

自主事業報告

企画・運営協力

京都、ルウエーゼミ20周年記念府民公開特別講座
「ノルウェーの男女平等とそれを支える社会福祉制度」

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 16:00
第2回 12月12日(金)16:30 ~ 18:00
第3回 12月12日(金)18:30 ~ 20:00
第4回 12月12日(金)20:30 ~ 22:00

ポスター展示

四大学連携研究フォーラム

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 19:30
第2回 12月12日(金)16:30 ~ 18:00
第3回 12月12日(金)18:30 ~ 20:00
第4回 12月12日(金)20:30 ~ 22:00

主催

人権委員会主催 教職員対象人権研修
「セクシャルマイノリティと人権」

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 16:00
第2回 12月12日(金)16:30 ~ 18:00
第3回 12月12日(金)18:30 ~ 20:00
第4回 12月12日(金)20:30 ~ 22:00

今後の予定

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 16:00
第2回 12月12日(金)16:30 ~ 18:00
第3回 12月12日(金)18:30 ~ 20:00
第4回 12月12日(金)20:30 ~ 22:00

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 16:00
第2回 12月12日(金)16:30 ~ 18:00
第3回 12月12日(金)18:30 ~ 20:00
第4回 12月12日(金)20:30 ~ 22:00

第1回 12月12日(金)14:30 ~ 16:00
第2回 12月12日(金)16:30 ~ 18:00
第3回 12月12日(金)18:30 ~ 20:00
第4回 12月12日(金)20:30 ~ 22:00

「卒業生の就業状況調査」調査報告概要

I 調査概要

1. 調査の目的

京都府立大学では、2013年度から男女共同参画推進室を設置し、男女が対等な構成員として、教育、研究、地域貢献及び大学運営を行うことにより、男女共同参画社会の実現に貢献することを目指した取り組みを推進している。

本調査は、このような取り組みを一層充実させていくため、本学の卒業生の就業状況を明らかにし、今後の研究者等の支援方策や、卒業生との連携の展開を検討する基礎データを得ることを目的に、本学同窓会の協力を得て実施した。

2. 調査内容

調査対象：本学学部卒業後、5年・10年・15年を経過した766名。

本調査はライフステージごとの職業キャリアの変化を把握することと、復職希望を持つ卒業生の現状を把握するため、子育て期と想定される卒業生（卒業後5年・10年・15年）を調査対象とした。

調査方法：同窓会名簿から該当年度の対象者を抽出。郵送配布、回収

調査期間：2013年11月26日（火）～12月20日（金）

調査票配布数：766名

有効回答数：276名（女性211名、男性65名）

有効回収率：36.0%

3. 調査項目

回答者の属性

卒業・修了直後の進路

現在の仕事

卒業・修了直後の進路から現在の仕事の変化

非就労者の就労意向

仕事と家庭を両立して仕事を続けるために必要なこと

自由記述

4. 報告書の見方

（1）図表中のn（Number of case）は、設問に対する回答者数のことである。

（2）回答比率（%）は回答者数（n）を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しない場合がある。また、一人の対象者に複数の回答を求め

る設問では、回答比率（％）の計は100.0%を超える場合がある。

（３）図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

（４）図表中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問である。

- ・ MA %（Multiple Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
- ・ 2 L A %（2 Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを２つ以内で選択する場合
- ・ 3 L A %（3 Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを３つ以内で選択する場合

5. 回答者内訳

卒業年度ごとの学部別の回答状況は下記の通りである。

【卒業年度ごとの学部別回答者（図表0-1）】

			(人)		
卒業年度	卒業後年数	対象学部・研究科	合計	男性	女性
平成9年度 (1997年度)	15年	文学部・文学研究科	11	3	8
		福祉社会学部・福祉社会学研究科※ ¹	9	1	8
		人間環境学部・人間環境科学研究科※ ²	34	5	29
		農学部・農学研究科	23	12	11
		女子短期大学部 ※ ³	41		41
合計			118	21	97
平成14年度 (2003年度)	10年	文学部・文学研究科	10	3	7
		福祉社会学部・福祉社会学研究科	10	2	8
		人間環境学部・人間環境科学研究科	31	6	25
		農学部・農学研究科	23	10	13
		合計		74	21
平成19年度 (2007年度)	5年	文学部・文学研究科	7	0	7
		福祉社会学部・福祉社会学研究科	11	2	9
		人間環境学部・人間環境科学研究科	43	10	33
		農学部・農学研究科	17	9	8
		合計		78	21
学部不明			6	2	4
総合計 (a)			276	65	211
送付数 (b)			766	241	525
有効回収率 (%)	(a/b)		36.0%	26.9%	40.1%

※¹平成20年度（2008年度）、福祉社会学部は、公共政策学部に改組。

※²平成20年度（2008年度）、人間環境学部・農学部は、生命環境学部に改組。

※³女子短大部は平成10年（1998年）3月31日で廃止。

Ⅱ. 調査結果の概要

1. 卒業直後の進路形態と現在の就業状況

大学卒業直後の進路の形態

「正規社員・正規職員」が68.8%で最も多く、次いで「進学」13.0%となっている。「正規社員・正規職員」の割合は、男性67.7%、女性69.2%で、女性のほうが上回る。

現在の就業状況

(1) 仕事の形態

「正規社員・正規職員」が65.6%で最も多く、次いで「収入を伴う仕事にはついていない（家事手伝い、専業主婦（夫）等）」18.8%、「非常勤、パートタイム、アルバイト」6.9%、「派遣社員、契約社員、嘱託社員」4.7%、「自営・家族従業」2.9%となっている。

性別で見ると、女性の「正規社員・正規職員」の割合は58.8%となっており、全国の大学卒女性における「正規社員・正規職員」の割合とほぼ同じである。

(2) 現在の職業

性別を問わず「事務的職業」が最も多く、次いで「研究者・技術者」「その他専門職」となっている。男性では「事務的職業」(30.2%)、「研究者・技術者」(20.6%)、「その他専門職」(12.7%)の順であり、女性は「事務的職業」(45.3%)、「その他専門職」(17.3%)、「研究者・技術者」(13.3%)となっている。

「研究者・技術者」は男性(20.6%)のほうが女性(13.3%)より高いものの、女性の「研究者・技術者」の割合は全国平均(9.1%)よりも高い。

(3) 継続状況

「やめた（転職や中断再就職を含む）」が53.9%で最も多く、回答者の過半数が転職・退職をしている。一方で、「現在まで同じ仕事を同じ勤務先で続けている」が30.7%、「現在まで同じ仕事を続けているが、勤務先は変わった」は14.0%となっている。

(4) やめた理由

「やめた理由（2つまで複数回答）」を性別で見ると、女性は「転職」(29.0%)、「労働条件」(26.2%)、「結婚」(24.3%)、「キャリアアップ」(15.9%)、「妊娠・出産・育児」(15.0%)となっている一方、男性は「転職」(68.8%)、「キャリアアップ」(37.5%)、「労働条件」(31.3%)となっている。「結婚」「妊娠・出産・育児」といったライフイベントを理由として離職する男性はいない。職業キャリア形成におけるライフイベントの影響は、女性のほうが顕著である。

2. 卒業直後の仕事と現在の仕事の変化

(1) 仕事の形態（性別）

女性の「正規社員・正規職員」の割合（69.2%から58.8%）が10.4ポイント低下し、「非就職」（1.4%から24.2%）が22.8ポイント上昇している。男性では、「正規社員・正規職員」の割合が67.7%から87.7%と20.0ポイント上昇している。

(2) 職業（性別）

男性では、最も多かった「販売的職業」（31.9%から19.0%）は低下、また、2番目に多かった「研究者・技術者」（25.5%から20.6%）も低下している。これに対し、「教員」や「その他の専門職」（4.3%から12.7%）「事務的職業」（23.4%から30.2%）は上昇している。

女性では、「販売的職業」（23.2%から6.7%）は低下しているが、「研究者・技術者」の割合は、男性と違って大きな変化はみられない。一方、元々多かった「事務的職業」（37.6%から45.3%）は上昇し、女性の半数近くを占めている。また、「教員」や「その他の専門職」の割合も上昇し、男性に比べそれらの割合は高くなっている。

(3) 業種（性別）

男性では、卒業直後の仕事で最も多かった「卸売・小売業、飲食店」（21.3%から9.5%）が低下する一方、「情報・通信」や「医療・福祉」「教育・研究」「公務」の各割合が上昇し、特に「公務」については10.6%から20.6%へと10ポイント上昇している。

女性では、男性同様、「卸売・小売業、飲食店」（15.5%から4.7%）の低下率が大きい。また、「製造業」（21.0%から16.7%）も低下する一方、「医療・福祉」や「公務」の各割合は上昇し、特に「公務」は6.6%から15.3%へと8.7ポイント上昇している。

本学卒業生は、一旦就職し、その後「公務」や「医療・福祉」に関わる仕事への転職が多いことも特徴である。

3. 子育て期の女性の就業状況

子どもがいる女性のうち、過半数（53.1%）が就業しており、中でも、正規社員・正規職員の割合は37.5%である。子育て期の女性の正規社員・正規職員の割合は、全国平均（19.1%）の2倍にのぼっている。「その他の専門職」「研究者・技術者」「公務」に従事する女性が多いことがその要因であると考えられる。

4. 非就労者の就労意向

「収入を伴う仕事についていない（家事手伝い、専業主婦（夫）等）」と回答した卒業生（52名）のうち、今後、収入をとまなう仕事をしたいかについては、「そう思う」（61.5%）、「どちらかといえばそう思う」（26.9%）を合わせた88.4%が「収入を伴う仕事をしたい」と回答している。現在の就業状況に関わらず、働く意欲は高い。

5. 仕事と家庭を両立して仕事を続けるために必要なこと

仕事と家庭を両立して仕事を続けるために必要なことを3つまで聞いたところ、いくつかの項目で性別・子どもの有無によって差が見られた。

男性は「自身の考え方や時間の使い方の工夫」が53.8%で最も多く、次いで「会社や職場での上司の理解」が50.8%となっている。女性は「家族や配偶者の理解」が54.5%で最も多く、次いで「短時間勤務制度等、ライフサイクルに沿った柔軟な働き方」が52.1%となっている。「柔軟な働き方」を選択した女性は51.2%であり、男性の27.7%に比べ、2倍近い割合となっている。

子どもの有無別でみると、子どもがいる人では「短時間勤務制度等、ライフサイクルに沿った柔軟な働き方」が53.3%で最も多く、次いで「家族や配偶者の理解」が48.3%となっている。一方、子どもがいない人は「会社や職場での上司の理解」が56.4%で最も多く、次いで「家族や配偶者の理解」が55.1%となっており、意識や慣行を挙げている。

子どもがいる人は、「病児保育の設置」「待機園児の解消」「学童保育の充実」等、環境整備へのニーズが高い。自らの工夫、職場や家族の理解だけでは解決できない壁を職場や社会で整備する必要があることが分かる。

6. 自由記述

問8「仕事をやめようと思ったことがあるが、現在まで同じ仕事を続けている理由」(58件・回答率21.0%)は、大別すると、①やりがい・適職であると考えたから、②職場環境の改善(待遇を変更してもらった・人間関係の問題が解消された・職場環境を変えた)③家族の協力・周囲の後押し、④家族への責任、⑤経済的な理由・生活のため、⑤再就職活動の困難さ等に分けられる。

問9「仕事について京都府立大学生へのアドバイス」(115件・41.6%)は、大別すると、①就職活動に関するもの(心構え、姿勢／企業情報の把握／就職のために必要な経験)、②職業生活に対するもの(職業観形成の重要性・心構え／人間関係)、③女性の生き方と仕事に関するもの、④仕事と家庭との両立に関するもの(ワーク・ライフ・バランス)、⑤学生生活の過ごし方に関するものに分けられる。特に、③、④は女性からの回答が多く、就職、転職、就業継続、結婚、出産、再就職のライフサイクルの節目で決断を迫られることが多い女性の現状が窺える。

なお、自由記述欄の回答率は高く、母校に対する卒業生の真摯な思いが伝わってくる内容である。改めて、卒業生へ感謝の意を申し上げたい。

7. 留意点

本調査は、卒業後5年、10年、15年の同窓生を対象とした標本調査であること、卒業後15年の回答者のみ女子短大学部の卒業生が含まれることから、調査結果には統計的誤差が生じることがあることに留意いただきたい。

大学院生の現状とニーズ調査 調査票

大学院生各位

大学院生の現状とニーズ調査 調査協力をお願い

京都府立大学 男女共同参画推進委員会

京都府立大学では、平成25年度からの3年間、文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の採択を受け、男女共同参画推進室を拠点として、研究・教育の場や大学運営における男女共同参画の推進と、若手研究者の育成を進めるための取り組みを展開しています。

本年度は、若手研究者育成事業を中心に事業を展開します。その一環で本学における大学院生のキャリアパスと進路選択の状況を分析し、今後の支援の方策に役立てるために本学男女共同参画推進委員会では、若手研究者である大学院生全員を対象に、アンケート調査を行うこととしました。

なお、本アンケート結果は調査の目的のみに利用し、調査結果は後日ホームページや報告書にて掲載します。統計処理をしますので個人が特定されることはありません。ぜひご協力いただきますようお願い申し上げます。

提出期限 6月6日（金）

提出方法 封筒に入れて男女共同参画推進室（1号館3階）ポスト、学務課教務担当カウンターポスト、または指導教員へご提出ください。

【本調査に関する問い合わせ先】

男女共同参画推進室 （1号館3階 1310号室）

TEL:075-703-5143 Mail:danjo@kpu.ac.jp

1. 4 時間未満 2. 4～6 時間 3. 6～8 時間 4. 8～10 時間
5. 10～12 時間 6. 12～14 時間 7. 14 時間以上

1. 0 時間 2. 1～6 時間 3. 6～12 時間 4. 12～18 時間
5. 18～24 時間 6. 24～30 時間 7. 30 時間以上

	とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1 研究者（大学教員を含む）になりたいから	1	2	3	4	5
2 専門領域（テーマ）をより深めたいから	1	2	3	4	5
3 就職に有利だから	1	2	3	4	5
4 在学中に資格試験等をめざしたいから	1	2	3	4	5
5 在学中に就職活動をしたいから	1	2	3	4	5
6 学部卒業時に希望する就職先がなかった、入れなかったから	1	2	3	4	5
7 学部卒業時にまだ働きたくなかったから	1	2	3	4	5
8 大学院では性別に関係なく能力を発揮できそうだから	1	2	3	4	5
9 専門領域（テーマ）以外を含めてもっと勉強したかったから	1	2	3	4	5
10 その他（自由にお書きください）					

1. 研究職（公務員・企業を含む） 2. 非研究職（公務員・企業を含む）
3. 小・中・高・専門学校教員 4. 博士後期課程への進学
5. その他（ ）

Q2. (3) (博士後期課程の方のみお答えください) 博士後期課程進学を選んだ理由として、以下のものはどれくらいあてはまりますか？該当する番号に○印をつけてください。

	とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1 研究者（大学教員を含む）になりたいから	1	2	3	4	5
2 専門領域（テーマ）をより深めたいから	1	2	3	4	5
3 就職に有利だから	1	2	3	4	5
4 在学中に資格試験等をめざしたいから	1	2	3	4	5
5 在学中に就職活動をしたいから	1	2	3	4	5
6 修士修了時に希望する就職先がなかった、入れなかったから	1	2	3	4	5
7 修士修了では希望する職に就くことはできないから	1	2	3	4	5
8 大学院では性別に関係なく能力を発揮できそうだから	1	2	3	4	5
9 専門領域（テーマ）以外を含めてもっと勉強したかったから	1	2	3	4	5
10 その他（自由にお書きください）					

Q3. (1) 京都府立大学における研究環境について、以下の項目の該当する番号に○印をつけてください。

	とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1 就学時間が自分の希望に合っている	1	2	3	4	5
2 研究をするうえで適切な指導を受けることができる	1	2	3	4	5
3 性別に関係なく、自分の能力を発揮できる環境にある	1	2	3	4	5
4 研究室や機器等の設備面における研究環境が整っている	1	2	3	4	5
5 学内に、研究や進路について相談できる人がいる	1	2	3	4	5
6 学内に、研究や家庭を両立している良きモデルがいる	1	2	3	4	5
7 その他（自由にお書きください）					

Q4. 現在、研究生活において、困ったり悩んだりしていますか。該当する番号に○印をつけてください。他にもあれば自由に挙げてください。

	とても悩んでいる	やや悩んでいる	どちらともいえない	あまり悩んでいない	全く悩んでいない
1 経済的なこと	1	2	3	4	5
2 健康面	1	2	3	4	5
3 希望進路(就職先)につけるかわからないこと	1	2	3	4	5
4 希望進路(就職先)が明確にならないこと	1	2	3	4	5
5 研究と結婚・育児等を含めた将来のライフプラン	1	2	3	4	5
6 家族の理解が少ないこと	1	2	3	4	5
7 指導教官や研究室での人間関係	1	2	3	4	5
8 研究(論文)の進め方	1	2	3	4	5
9 研究における自分の適性	1	2	3	4	5
10 その他（自由にお書きください）					

Q5. あなたが研究生活で困ったり悩んだりしたとき、相談相手として頼りにしている人は誰ですか。該当する番号に○印をつけてください。

	とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1 指導教員	1	2	3	4	5
2 指導教員以外の教員	1	2	3	4	5
3 研究室の仲間	1	2	3	4	5
4 研究科の先輩・後輩	1	2	3	4	5
5 家族（親・きょうだい）	1	2	3	4	5
6 友人・恋人	1	2	3	4	5
7 学生相談室	1	2	3	4	5
8 その他（自由にお書きください）					

Q6. 現在のあなたの研究生活はどのようなものですか。該当する番号に○印をつけてください。

	とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1 研究に意欲を持って取り組んでいる	1	2	3	4	5
2 研究・指導体制に満足している	1	2	3	4	5

	とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
3 研究の設備環境に満足している	1	2	3	4	5
4 研究において能力が発揮できている	1	2	3	4	5
5 将来についての目標が明確になってきている	1	2	3	4	5
6 研究生活全般において満足している	1	2	3	4	5
7 その他（自由にお書きください）					

Q7. 男女共同参画推進室が次のような支援をする場合、あなたは利用したいと思いますか。該当する番号に○印をつけてください。他にもあれば自由に挙げてください。

		今必要がある		どちらとも いえない	今は必要ない	
		ぜひ利用したい	利用したくない		今後必要になったとき ぜひ利用したい	利用はしたくない
1 経済面での支援		1	2	3	4	5
2 健康面(女性の場合は女性特有の悩みも含む)の支援		1	2	3	4	5
3 進路・就職相談窓口		1	2	3	4	5
4 進学・就職支援のための講座（OB/OG の体験談等）		1	2	3	4	5
5 大学院生同士の交流の機会		1	2	3	4	5
6 将来への不安等悩みに関するキャリアカウンセリング		1	2	3	4	5
7 先輩や女性教員から具体的な助言をもらえる相談制度(メンター制度等)		1	2	3	4	5
8 研究支援のための スキルアップ講座	a 英語論文作成	1	2	3	4	5
	b プレゼンテーション能力	1	2	3	4	5
	c 調査研究スキル等	1	2	3	4	5
	d リーダーシップ開発 研修	1	2	3	4	5
	e 科研費の獲得	1	2	3	4	5
	f その他（					）
9 その他（自由にお書きください）						

Q8. あなたは、次のような悩みが生じた場合、大学院生専用の相談窓口があれば利用したいと思いますか。該当する番号に○印をつけてください。

	是非利用したい	機会があれば利用したい	どちらともいえない	利用する予定はない	利用したくない
1 経済面での支援	1	2	3	4	5
2 健康面	1	2	3	4	5
3 進路（就職）のこと	1	2	3	4	5
4 研究と結婚・育児等を含めた将来のライフプランのこと	1	2	3	4	5
5 人間関係のこと	1	2	3	4	5
6 研究の進め方について	1	2	3	4	5
7 その他（自由にお書きください）					

Q9. 男女共同参画推進室について、また男女共同参画推進室が実施している以下のサービス、制度について知っていますか。該当する番号に○印をつけてください。

	知っている		知らない
	利用したことがある	利用したことがない	
1 男女共同参画推進室の場所について	1	2	3
2 男女共同参画推進室主催のセミナー、サロン、シンポジウムへの参加	1	2	3
3 男女共同参画推進室のニュースレター、リーフレット	1	2	3
4 男女共同参画推進室のホームページ	1	2	3
5 研究支援員制度（女性研究者研究支援）	1	2	3

Q10. あなたが研究を進めていくうえで、障害となっていること、不安に感じていること、課題等があれば記入して下さい。

Q11. 男女共同参画推進、若手研究者育成等の取り組みに関するご意見・ご要望、ご提案等を自由に記述してください。

Q12. 最後に、あなた自身についてうかがいます。該当する番号に○印をつけてください。

(1) 性別 : 1. 男性 2. 女性

(2) 研究科 : 1. 文学研究科 2. 公共政策学研究科 3. 生命環境科学研究科

(3) 学年 : 1. 博士前期課程 () 年 2. 博士後期課程 () 年

学部 : 1. 学内出身 2. 学外出身

立場 : 1. 学生 2. 社会人学生 3. 留学生

(4) 年齢 : 1. 25 歳以下 2. 26～30 歳 3. 31～35 歳 4. 36～40 歳 5. 40

歳以上

(5) 配偶者 : 1. 有り 2. 無し

(6) 子 : 1. 有り 2. 無し

ご協力ありがとうございました。

本学における女性研究者・学生に関わる基礎データ

京都府立大学は 1895（明治 28）年創立の京都府簡易農学校と 1927（昭和 2）年創立の京都府立女子専門学校を母体として発足し、数度の再編を経て、現在は文学部、公共政策学部、生命環境科学研究科からなる京都府内唯一の公立総合大学である。

大学の概要

学部	文学部	公共政策学部	生命環境学部
大学院研究科	文学研究科	公共政策学研究科	生命環境科学研究科
常勤教員数	152 名（女性 25 名 女性教員比率 16.4%）		
正規職員数	63 名（女性 22 名 女性職員比率 34.9%）		
学生数	学部生	1,824 名（女性 1,104 名 女性比率 60.5%）	
	大学院生	309 名（女性 155 名 女性比率 50.2%）	

学生数は平成 26 年 5 月 1 日現在、その他は平成 26 年 6 月 1 日現在の数値

本学の歴史と男女共同参画の歩み

1895 年	京都府簡易農学校
1927 年	京都府立女子専門学校（文家政学部）
1949 年	西京大学（男女共学開始）
1951 年	女子短期大学部を併設
1971 年	女性図書館長（教員） 就任
1959 年	京都府立大学 に改称（文学部・農学部・家政学部）
1998 年	女子短期大学部を廃止
2000 年	セクシャルハラスメント防止委員会の設置
2008 年	公立大学法人化（文学部・公共政策学部・生命環境科学研究科） 京都府立医科大学と同一法人下に入る
2010 年 4 月	女性教務部長（教員）、女性学生部長（教員） 就任
2012 年 4 月	女性副学長（教員）、女性文学部長（教員） 就任
2013 年 1 月	男女共同参画推進準備委員会の設置
2013 年 5 月	教員対象「男女共同参画推進意識調査」の実施
2013 年 9 月	文部科学省科学技術人材育成費補助事業女性研究者研究活動支援事業採択
2013 年 10 月	男女共同参画推進委員会の設置・男女共同参画推進室の開設
2014 年 7 月	男女共同参画推進基本理念・基本方針を策定

京都府立大学における教員及び学生数の推移（男女別）

職階別女性教員比率

平成 26 年 11 月 1 日現在

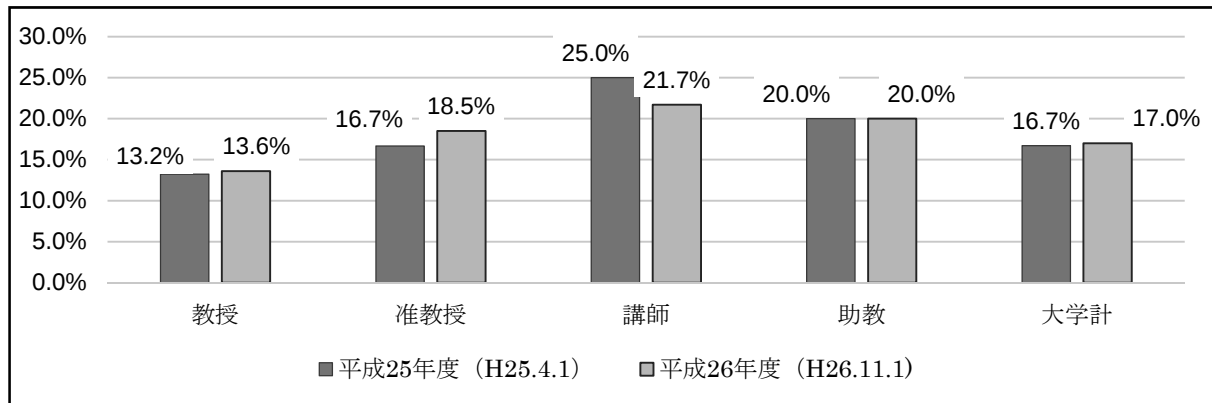
所属	教授			准教授			講師			助教			計			女性 割合 (%)
	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総数	男	女	
文学部	18	15	3	13	9	4	4	4	0	0	0	0	35	28	7	20.0%
公共政策 学部	9	8	1	12	9	3	2	2	0	0	0	0	23	19	4	17.4%
生命環境 科学研究科	39	34	5	30	27	3	16	11	5	10	8	2	95	80	15	15.8%
教員計	66	57	9	55	45	10	22	17	5	10	8	2	153	127	26	
女性割合 (%)	13.6%			18.1%			22.7%			20.0%			17.0%			

学部別女性教員比率

平成 27 年 4 月 1 日(予定)

	常勤教員数			
学科名	合計	男性	女性	女性比率
文学部				22.9%
日本・中国文学科	9	6	3	33.3%
欧米言語文化学科	10	6	4	40.0%
歴史学科	16	15	1	6.3%
公共政策学部				25.0%
公共政策学科	12	8	3	25.0%
福祉社会学科	12	9	3	25.0%
生命環境学部				16.9%
生命分子化学科	13	12	1	7.7%
農学生命科学科	24	23	1	4.2%
食保健学科	12	4	8	66.7%
環境・情報科学科	11	10	1	9.1%
環境デザイン学科	14	12	2	14.3%
森林科学科	15	13	2	13.3%

職階別女性教員の比率



女性教員の推移

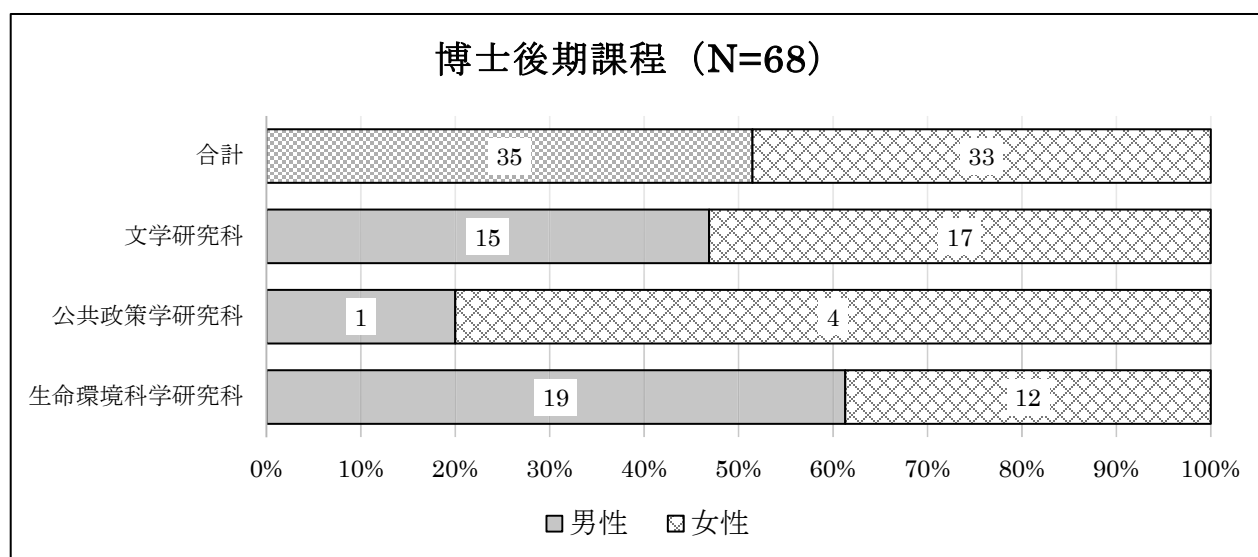
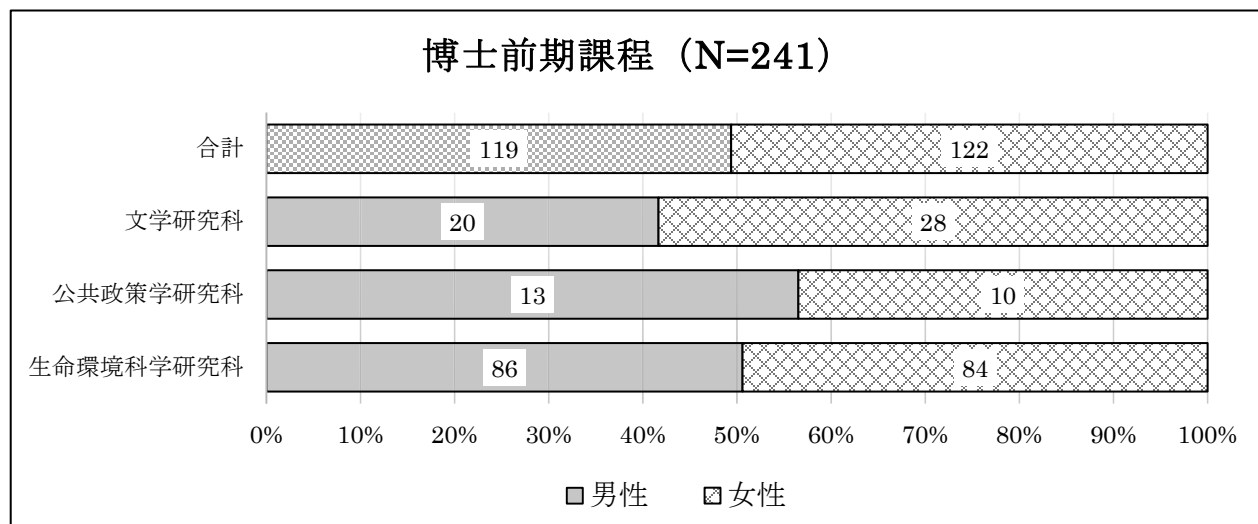
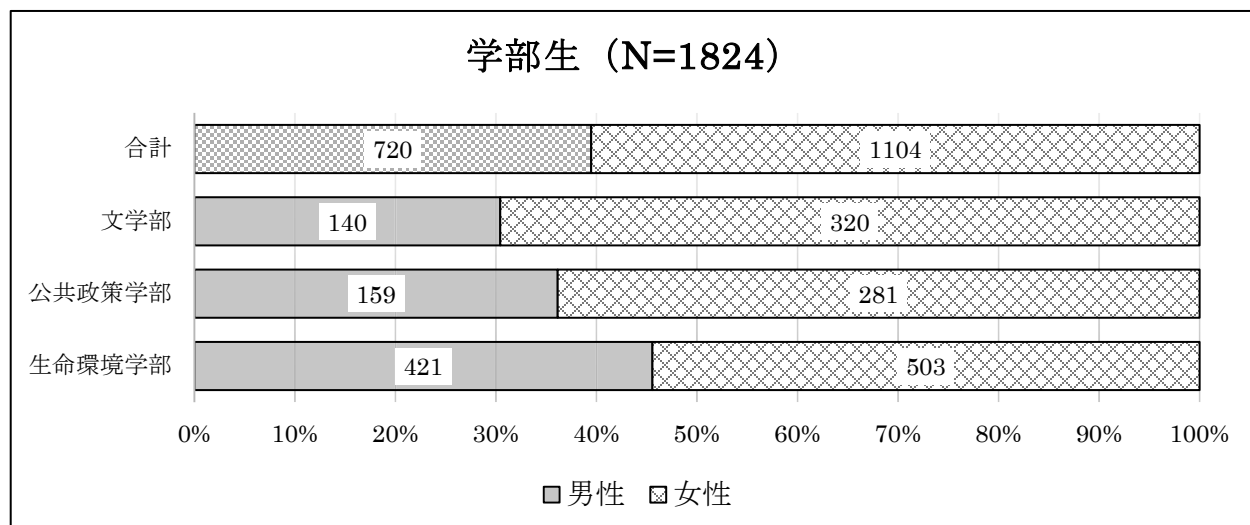
(単位：人)

		文学部	公共政策学部 (旧 福祉社会学部)	人間環境学部	農学部	生命環境学部	女性教員 比率(%)
平成 9 年	1997 年	7	2	6	0		9.8
平成 10 年	1998 年	7	3	6	0		10.3
平成 11 年	1999 年	7	3	7	1		11.6
平成 12 年	2000 年	7	3	7	1		11.7
平成 13 年	2001 年	7	3	7	1		11.7
平成 14 年	2002 年	8	3	7	1		12.3
平成 15 年	2003 年	8	4	6	1		12.5
平成 16 年	2004 年	8	5	6	2		14.0
平成 17 年	2005 年	8	5	8	2		15.3
平成 18 年	2006 年	8	4	7	2		14.3
平成 19 年	2007 年	7	4	7	2		14.3
平成 20 年	2008 年	8	5			11	15.2
平成 21 年	2009 年	8	5			11	15.5
平成 22 年	2010 年	8	4			13	16.2
平成 23 年	2011 年	7	5			10	15.0
平成 24 年	2012 年	7	5			12	15.8
平成 25 年	2013 年	7	5			14	16.7
平成 26 年	2014 年	7	4			14	16.4

昭和 24 年(1949)に農学部発足。平成 9 年(1997)に福祉社会学部及び人間環境学部発足。

平成 20 年(2008)に公共政策学部及び生命環境学部発足。

学生・大学院生の男女比率（平成 26 年 5 月 1 日現在）



学生に占める女性の割合の年次推移

(単位 %)

		文学部	公共政策学部 (旧 福祉社会学部)	人間環境学部	農学部	生命環境学部	全学 平均比率 (%)
平成 9 年	1997 年	68.3	59.2	68.9	37.5		55.0
平成 10 年	1998 年	69.2	68.4	66.7	43.7		59.5
平成 11 年	1999 年	68.8	72.8	69.5	45.7		61.9
平成 12 年	2000 年	68.2	73.2	68.9	46.0		62.6
平成 13 年	2001 年	71.3	77.3	69.6	48.5		65.2
平成 14 年	2002 年	70.9	72.8	67.0	49.2		64.0
平成 15 年	2003 年	71.6	72.1	66.0	50.6		64.3
平成 16 年	2004 年	71.8	72.4	64.5	52.0		64.6
平成 17 年	2005 年	72.4	69.2	63.8	52.0		64.0
平成 18 年	2006 年	72.2	74.5	65.8	50.7		65.0
平成 19 年	2007 年	73.6	74.5	62.2	51.3		64.8
平成 20 年	2008 年	73.5	60.2			58.4	67.7
平成 21 年	2009 年	69.4	57.7			57.0	62.4
平成 22 年	2010 年	69.7	58.8			57.7	61.9
平成 23 年	2011 年	67.3	59.5			56.7	60.2
平成 24 年	2012 年	67.6	60.5			54.2	59.3
平成 25 年	2013 年	69.1	62.5			53.7	60.3
平成 26 年	2014 年	69.9	63.7			54.4	60.5

昭和 24 年(1949)に農学部発足。平成 9 年(1997)に福祉社会学部及び人間環境学部発足。

平成 20 年(2008)に公共政策学部及び生命環境学部発足。

V 規程・要項

京都府立大学男女共同参画推進委員会規程

(平成25年京都府立大学規程第1号)

(設置)

第1条 京都府立大学における男女共同参画の推進を図るため、男女共同参画推進委員会（以下「推進委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 推進委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 京都府立大学副学長規程第2条に掲げる副学長のうち学長が指名する者（以下「副学長」という。）
- (2) 文学部長、公共政策学部長及び生命環境科学研究科長
- (3) 事務局長
- (4) 文学部教員及び公共政策学部教員各1名、生命環境科学研究科教員2名

(任期)

第3条 前条第4号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 推進委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長には副学長を充て、副委員長は委員長が指名する。

3 委員長は、推進委員会の会議を主宰する。

4 副委員長は、委員長の職務を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(所掌事項)

第5条 推進委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 男女共同参画の基本方針の策定
- (2) 男女共同参画の推進に関する事項
- (3) 女性研究者研究活動支援に関する事項
- (4) その他男女共同参画の普及・啓発に関する事項

(会議)

第6条 推進委員会の会議は、委員の過半数の出席がないときは、開くことができない。

(意見の聴取)

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を推進委員会に出席させ、意見を聞き、又は説明を求めることができる。

(事業の推進)

第8条 男女共同参画の具体的取組を推進するため、委員会に男女共同参画推進室（以下「推進室」という。）を設置する。

2 推進室に事業を総括する室長を置き、委員長をもって充てる。

3 推進室にプロジェクトリーダーを置き、委員の中から委員長が指名する。

4 推進室長は、委員以外の京都府立大学教職員を所属長の承認を得て推進室の業務にあたらせることができる。

(庶務)

第9条 推進委員会の庶務は、管理課総務担当において処理する。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成25年10月9日から施行する。

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 委員会発足時の委員の任期は、第3条第1項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

京都府立大学女性研究者研究活動支援事業による研究支援員制度 実施要項

(趣旨)

第1条 この要項は、京都府立大学（以下「本学」という。）において、妊娠・出産・育児・介護等期間中の研究者に対し、ライフイベントと研究活動の両立を支援することを目的として、研究支援員を雇用するための事項を定めるものとする。

(申請資格)

第2条 研究支援員（以下、「支援員」という。）の雇用を申請できる者は、本学の常勤研究者（特任教員・学術研究員を含む）であって、下記のいずれかに該当する者とする。

- (6) 妊娠中の女性研究者、または妊娠中の配偶者を有する男性研究者
 - (7) 女性研究者、または配偶者を有する男性研究者で、小学校6年生までの子どもを養育中の者
 - (8) 女性研究者、または配偶者を有する男性研究者で、市町村から要介護の認定を受けている親族（同居、別居は問わない）を介護している者
 - (9) 上記に準ずる理由により研究活動を行う時間が確保できない者
 - (10) その他、男女共同参画推進委員会（以下、「委員会」という。）が必要と認める者
- 2 産前・産後の特別休暇中、育児休業中などにより研究活動を中断している研究者は支援の対象外とする。
- 3 男性研究者の場合は、配偶者が大学・大学共同利用機関、独立行政法人で雇用されている研究者であること。
- 4 申請資格については、資格確認の必要書類の他、申請理由を考慮して委員会が確認の上、資格の有無を判断する。

(選考及び選考基準)

第3条 別紙様式1「利用申請書」を、委員会が審査のうえ選考し、利用対象者を決定する。

- 2 利用対象者の選考基準は、育児・介護等に起因する研究困難度、支援による効果が見込まれるもの、支援が緊急性を要するものを優先して選考する。
- 3 利用対象者数の決定は予算の範囲内で行うこととする。

(利用期間及び利用時間)

第4条 支援員の任用は必要な期間に限り行うこととし、継続した6ヶ月以内の期間とし、利用対象者の募集は年2回行う。なお、支援員の雇用上限時間数は研究者1名につき10時間とする。

(支援員候補者の申請)

第5条 支援員の雇用を希望する研究者は、申請書に支援員候補者名を記載して提出する。

(研究支援員)

第6条 支援員は、申請書に記載された業務内容や就業時間等に基づき、原則として学内において、研究者の実験・調査の補助、データの入力・分析、学会資料や報告書類の作成、その他、研究業務の補助等の研究活動支援業務を行うものとする。

- 2 支援員は、原則として本学の大学院に在籍する者とするが、支援員の確保が困難な場合は、委員会が認めた者とする。
- 3 支援員は、女性を優先する。
- 4 支援員は、雇用する研究者の指揮命令の下で補助業務にあたる。
- 5 支援員の1時間当たりの報酬単価は、大学院生及びこれに準じる者 1,000 円、博士課程単位取得後満期退学者 1,200 円とする。
- 6 支援員が本学の RA・TA としてすでに雇用されている場合は、RA・TA の勤務時間と支援員としての勤務時間の合計が週 20 時間以内であることとする。
- 7 支援員のその他の扱いについては、「京都府公立大学法人有期雇用教職員就業規則」によるものとする。

(支援員の雇用人数)

第7条 本事業における支援員の雇用人数は、上限時間内であれば複数雇用も可とし、予算の範囲内で決定する。ただし、複数雇用するときは、各支援員を同時に雇用することはできない。

(提出書類)

第8条 申請にあたっては、別紙様式1「研究支援員制度利用申請書」に応じて以下の書類を提出するものとする。

- (1) 出産：母子健康手帳の写し
育児：子の年齢を証明できるもの（住民票、健康保険証、母子健康手帳の写し等）
介護：市町村による要介護の認定を証明できるもの（介護保険被保険者証、障害者手帳の写し等）
- (2) 研究者と対象となる子又は親族との続柄が証明できるもの（住民票、戸籍謄本、健康保険証、母子健康手帳等の写し等）
- (3) 支援員の履歴書（本学在籍者以外の場合）
- (4) 男性の申請者で、配偶者が研究者の場合は、配偶者が研究に従事していることを証明するもの（勤務先の身分証の写し等）
- (5) その他、委員会が必要と判断したもの

(勤務状況の把握)

第9条 支援員の勤務状況は、支援を受ける研究者が適宜把握するとともに、出勤簿により当該月の勤務状況を毎月 25 日迄に男女共同参画推進室へ報告するものとする。

また、研究支援員及び利用時間数に変更が生じた場合は速やかに男女共同参画推進室に報告するものとする。

(期間終了後の報告)

第 10 条 研究者および支援員は、期間終了後、3 週間以内に別紙様式 2「研究支援員制度利用報告書」(研究者用)、別紙様式 3「活動報告書」(支援員用)を男女共同参画推進室に提出しなければならない。

(変更の報告)

第 11 条 研究支援員や利用期間の変更が生じた場合は、速やかに研究支援員変更届(別紙様式 4)を男女共同参画推進室に提出しなければならない。

第 12 条 この要項に定めるもののほか、本制度に関し必要な事項は委員会が別に定める。

附 則

この要項は、平成 26 年 4 月 23 日から実施する。

京都府立大学女性研究者研究活動支援事業による保育支援プログラム 実施要項

(趣旨)

第1条 この要項は、京都府立大学（以下「本学」という。）において、子育てを行う研究者に対し研究活動への影響を最小限にし、子育てと研究を両立するための一助となるよう、保育支援（病児・病後児保育、夜間保育、休日保育）を行うための事項を定めるものとする。

(申請資格)

第2条 本学の研究者（特任教員及び学術研究員を含む）であって、下記のいずれかに該当する者とする。

- (1) 小学校6年生までの子どもを養育中の女性研究者
- (2) 配偶者（大学等で日常的に研究を行う研究者に限る）を有する小学校6年生までの子どもを養育中の男性研究者
- 2 産前・産後の特別休暇中、育児休業中などにより研究活動を中断している研究者は支援の対象外とする。
- 3 男性研究者の場合、配偶者が大学・大学共同利用機関、独立行政法人で雇用されている研究者であり、かつ配偶者が日常的に研究を行う研究者である場合に限る。

(支援内容)

第3条 対象となる研究者の子どもが急な発熱等で通常の保育（保育園等）を受けることができず病児・病後児保育を利用する場合、通常の保育とは別に休日保育、夜間保育を利用する場合の保育利用料を以下の条件で助成する。

- ① 利用料の2分の1を男女共同参画推進室が負担する。
- ② 男女共同参画推進室の負担の上限額は、子ども一人当たり240,000円／年とする。
- ③ 保育サービスの入会金・登録料・保険料・キャンセル代は支援の対象外とする。
- ④ 補助上限金額には京都府立医科大学病児保育室（愛称：「こがも」）利用に関する利用料補助も含む。「こがも」利用料に関しては京都府立医科大学病児保育室利用内規によるものとする。

(利用期間)

第4条 保育支援プログラムの利用は当該年度内とする。なお、必要に応じて審査のうえ、更新することができる。

(選考及び選考基準)

第5条 支援対象者の選考は、別紙様式1の「利用申請書」を、男女共同参画推進委員会（以下、「委員会」という。）が審査のうえ、優先度を勘案し、予算の範囲内で、対象者を決定する。

- 2 支援決定は、支援通知書を交付することによって行う。

(提出書類)

第6条 申請登録にあたっては、別紙様式1「利用申請書」に応じて以下の書類を提出するものとする。

- ① 子との続柄が証明できる書類（住民票、母子健康手帳、健康保険証等の写し）
- ② 養育する子の年齢を証明できる書類（住民票、母子健康手帳、健康保険証等の写し）
- ③ 利用する保育サービスの実施概要、利用料がわかる書類（パンフレット等）

(利用状況の報告)

第7条 利用対象者は、毎月10日までに前月分利用実績を、別紙様式2「利用報告書」及び別紙様式3「利用助成申請書」、利用料の証ひょう書類（領収書等）とともに男女共同参画推進室へ提出するものとする。

(利用料の支払)

第8条 別紙様式2「利用報告書」、別紙様式3「利用助成申請書」及び利用料の証ひょう書類（領収書等）を確認後、男女共同参画推進室から利用補助を支払う。

第9条 この要項に定めるもののほか、保育支援プログラムに関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1. この要項は、平成26年1月1日から施行する。
2. 第3条に定める男女共同参画推進室が負担する金額は、平成25年度に関しては、上限金額を6万円とする。

附 則

1. この要項は、平成26年4月23日から施行する。

京都府立大学女性研究者研究活動支援事業による「京都府立大学あおいセミナー」募集要項

男女共同参画推進室では、女性研究者の研究活動の一層の促進をめざすため、女性研究者を講師として招聘する研究会・講演会等を学内で実施する場合、謝金・交通費の補助を行う「京都府立大学あおいセミナー」の企画を募集します。

1. 募集対象者

本学に在籍する常勤教員

2. 募集内容

平成26年7月1日（火）～平成27年3月13日（金）に実施し、女性研究者を講師とする研究会・講演会等の企画案

※国内からの招聘に限る。

※他の研究会・講演会等との共催や授業への招聘も可。

※研究会・講演会内容に自身の女性研究者としてのキャリア形成、ライフイベントとの両立の視点が盛り込まれていること。

3. 応募方法

セミナー開催日の2ヶ月前迄に「平成26年度文部科学省女性研究者研究活動支援事業 京都府立大学あおいセミナー企画応募用紙」（別紙様式1）を、男女共同参画推進室へ提出（持参）。募集件数に達し次第、応募受付を締め切らせて頂きます。

4. 募集件数

5件程度 （但し、予算の状況により調整することがあります）

5. 助成額

旅費・謝金の合計金額上限2万円

※学内規程に沿った講師謝金・旅費の金額を応募用紙に記入の上、提出ください。

※2万円を超える場合は超過分を含む財源の全体像を明記してください。

6. 実施スケジュール

（1）セミナー開催日の2ヶ月前迄に申請書（別紙様式1）を提出

（2）男女共同参画推進委員会で審査、対象事業を決定

（3）平成26年7月1日（火）～平成27年3月13日（金）迄に研究会・講演会等を実施

- (4) 事業実施後、2週間以内に実施報告書（別紙様式2）を提出（平成27年3月13日までに必ず提出してください）。
- (5) 報告書は男女共同参画推進室ホームページに掲載

7. 役割分担

申請教員：企画立案、講師への交渉

男女共同参画推進室：

講師謝金の負担、講師依頼や謝金の支払い等の事務手続き、広報等

その他：

※講師謝金の金額は学内規定と実施内容に基づく

※具体的な分担内容は、申請教員と相談しながら進める予定

8. 留意事項

- 実施の前に、必ず、男女共同参画推進室に応募書類を提出してください。研究会・講演会等終了後の応募は認められません。
- 実施の際は、研究会・講演会等に「第〇回 京都府立大学あおいセミナー」と表記し（併記可）、開始してください。

9. 応募書類の提出先および問い合わせ先

男女共同参画推進室 1号館3F 1310号室

Tel (075) 703-5143（内線5143）

10. 昨年度実績

- 「理系女子のライフ・ワーク・バランス」高木 由美 氏（㈱メイベル 代表取締役）
生命環境科学研究科 生命物理化学研究室
- 「女性研究者による公衆栄養学の教育研究のこれまでと今後の発展」
古川 曜子 氏（京都光華女子大学 講師）
池田 順子 氏（京都文教短期大学名誉教授・本学非常勤講師）
生命環境科学研究科 健康科学研究室
- 「続けることの大切さ」丸山 美帆子 氏（大阪大学大学院工学研究科 特任助教）
生命環境科学研究科 生命物質化学研究室

京都府立大学女性研究者支援メンター制度 実施要項

（目的）

第1条 女性研究者支援メンター制度とは、一定の職務経験を有する先輩研究者等がメンタリング（相談・助言）を行うことで、女性の若手研究者等が教育・研究の向上及びワーク・ライフ・バランスの向上を図ることを目的とする。

（メンティの要件）

第2条 メンター制度の利用対象者（以下、「メンティ」という。）は、次に掲げる者とする。必要に応じて、一人あるいは複数の相談者（以下、「メンター」という。）に相談を依頼することができる。

- （1）本学に在籍する女性の大学院生・学術研究員
- （2）本学に在職する女性常勤教員
- （3）本学有期雇用教職員就業規則の適用を受ける女性の特任教員・研究員
- （4）その他男女共同参画推進室長が必要と認める者

（メンターの要件）

第3条 メンターは、本学の女性常勤教員のメンター登録者と男女共同参画推進委員会委員とする。

（相談内容）

第4条 相談内容は、メンティの教育・研究活動、ワーク・ライフ・バランス等に関わる相談とする。例えば、キャリア形成や研究と出産・育児・介護等の両立等に関すること、外部資金獲得方法、教育活動に関すること等があげられる。

（メンター制度利用の申請）

第5条 メンター制度の利用申請は、男女共同参画推進室宛にメールまたは電話にて行う。

（メンター制度の利用回数）

第6条 メンター制度の利用回数は、一人のメンターにつき原則として3回までとする。

（メンターの決定とメンターへの委嘱）

第7条 メンターの決定とメンターへの委嘱については、男女共同参画推進室長が行うものとする。

（報告書の提出）

第8条 メンター、メンティは、メンタリング終了後、報告書（別紙様式1、別紙様式2）を男女共同参画推進室に提出する。

(守秘義務)

第9条 メンター及びメンティは、両者のプライバシー、名誉及び人権等に十分配慮すると共に、知りえた情報を他に漏らしてはならない。

2 前項の守秘義務は、メンター及びメンティがその身分を失った以降も課せられるものとする。

(その他)

第10条 この要項に定めるもののほか、女性研究者支援メンター制度に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1 この要項は、平成26年10月1日から施行する。

VI 实施体制

平成 26 年度 男女共同参画推進委員会 委員一覧

小沢 修司	副学長 男女共同参画推進委員会委員長・男女共同参画推進室長 公共政策学部教授（意識啓発プロジェクトリーダー）
渡邊 伸	文学部学部長
野口 祐子	文学部教授（研究者両立支援（かつらプロジェクト）リーダー）
吉岡 真佐樹	公共政策学部学部長
渡部 邦彦	生命環境科学研究科研究科長
高野 和文	生命環境科学研究科教授
リントウルオト 正美	生命環境科学研究科准教授 （若手研究者育成（あおいプロジェクト）リーダー）
朝田 佳尚	公共政策学部講師
稲村 智史	事務局長

平成 26 年度 男女共同参画推進室 室員一覧

小沢 修司	男女共同参画推進室 室長
野口 祐子	男女共同参画推進室 副室長
山田 邦子	管理課 主査
鈴木 暁子	コーディネーター（総括）
長谷川 里奈	特別研究補助員
得能 真子	事務スタッフ
鷹野 静代	オフィスアシスタント（同窓会との連携担当）
後藤 春美	オフィスアシスタント（相談担当）

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
女性研究者研究活動支援事業（一般型）
（活動期間：平成 25 年度～平成 27 年度）

平成 26 年度 京都府立大学男女共同参画推進室 事業報告書

発行日 平成 27 年 3 月発行
発行 京都府立大学男女共同参画推進室
連絡先 〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5
TEL 075-703-5143
FAX 075-703-5149
URL <http://kpu-sankaku.jp/>
E-mail danjo@kpu.ac.jp

